

恰かも、私共が、珍來の客でも持て成す如き御態度にて、先生を殿下の御自習室より、御居間總てを御案内せられました。それより御庭に御下りになりまして、小イインコ鳥を御飼ひになつてをられます場所へ、先生を御連れ申されました。この時セキセが、巢に解つてゐました。如何にも可愛らしいので、非常に愛らしき由を、申し上げました。元來林先生は、小鳥が御好きでありまして、先生の家には、數多くの小鳥が飼育されてあります。その時の事を忘れ給はで、雛成長の後、鷹司傅育官に命じ、更らに子を殖やし、その内の一對を、先生に下されたのであります。

この御下賜にあづかりましたこの先生は、實に殿下に厳格な運動教育を施されてゐる方であり、右の一事から殿下が、林先生を如何に御慕ひ遊ばすかと恐察されます。又運動教育の御精神を如何に辨へさせ給ふかが、眞に拜察することが出来ます。又一つには、林先生の人格も忍ばれ、又一つには、こゝに運動教育の道が、嚴乎として樹立されて居ると思ひます。

第二章 秩父宮殿下の體育御精神

第一節 殿下の御學歴

- 一、明治四十二年四月學習院初等科第一學年に御入學
- 一、大正四年四月初等科御卒業
- 二、同年四中等學科に御入學
- 一、同六年三月同科第二學年御修了
- 一、同年四月より九月まで中央幼年學校豫科特別學班にて御勉學
- 一、同年九月中央幼年學校豫科(現在の東京幼年學校三學年に御入學)
- 一、同七年七月豫科御卒業
- 一、同年九月同校本科現在の陸軍士官學校豫科に御入學
- 一、同九年三月本科御卒業
- 一、同年四月より麻布歩兵第三聯隊へ御入隊御勤務
- 一、同年十月陸軍士官學校本科に御入學(第三十四期生)
- 一、同十一年七月二十八日同校御卒業(御卒業後見習士官拜命麻布第三聯隊第六中隊に御入隊)
- 一、同年十一月二十五日附 叙大勳位授菊花大授章 任陸軍歩兵少尉補歩兵第三聯隊附

と申されました。

諸君、この御教訓を何と感じますか。何事も勉強であります。何事も修養であります。こゝに先生の道もあり、生徒の道もあります。殿下の御精勵を、眼のあたりに拜し奉る私の頬には、熱い涙が無限に流れました。思はずむせぶ二聲三聲、どうしても止める事が出来ませんでした。殿下の御精神も御精神、御態度も御態度であります。先生も先生であると感じました。一臣下である林先生が、殿下にこの御訓諭を御與へする事の出来る、今の世に泣き、且つ師道の權威にも泣きました。地方の先生や父兄、わけて自省の念慮に乏しい教師や、分らず屋の父兄に、この御姿を拜ませ度いと感じました。

この敬禮の精神を立つる事及び服装の調べ等をなす仕事を、林先生は秩序運動と申されてゐます。之は懸垂運動、跳躍運動と同じ意味、同じ系列で、體育運動教授の最初及び終末に、課することを主張されてゐます。凡そ如何なる事も、如何なる物も、秩序の精神に始まり秩序の精神に結ぶ事は、必要なる着眼であると思ひます。この仕事を、一つの課目として看、一つの課目として實施する用意がなければならぬ。この點に思ひを致せば、私共平素の體操教授や、體育の指導が、如何に簡單で、如何に雑作な

いことでありませうか。教ふるものも教へらるゝものも、簡單に流れ、簡單に終り、無雑作に取扱はれます。運動教育といふ見地から、之を眺めたならば、如何に反省すべき節々の多いことでありませう。私は或縣、或郡、或學校の或訓導の、體操科の授業を見ました。その訓導自身の各運動要領は、實に立派なものでありました。之を兒童に見ましても、技術的方面に、誠に敬服すべく驚くべき、達者なものでありました。併し之を教育や修養といふ見地から眺めますと、全然淺草式體操でありました。その級は、尋常五年でありましたが、例の呼吸運動が終ると、解散になるといふことは、已に兒童の熟知して居る所でありまして、呼吸運動が済んで、先生が「解れ」といふ號令を掛けやうとしますと、既に四分の三の子供は、片足を後ろに引いて、逃仕度萬端調うて居ります。四分の一の子供も、表向動作にこそ現はれないが、其精神は同様に窺はれました。こゝに同先生が「解れ」の號令をかけるや、子供は待つてゐましたとばかり、頭を一寸ガクリとさせたのみで、一目散に走り出しました。つまり逃げ出してゐるのであります。一事が萬事であります。斯くの如きは、如何に技巧に優れ動作に巧妙なりとはいへ、精神上には百害あつて一益なしと言はなければなりません。お互は今後、運動形式や運動技術に就て、あまりに喧しく申したくないのであります。運動の

技術之は或る目的を達成する一方便に過ぎませぬ。この技術やこの形式を通じて、如何なる結果を収獲するか、問題であります。方法と目的とをクロスせぬ様に、充分の御警戒を願ひたいのであります。誰の體操は甘い、誰の體操は拙いとか申しますが、淺草式體操ならば格別、教育體操には、甘いとか拙いとかいふ言葉は、ない筈であります。この理解のない體育運動は、教育上全く空であります。

第二 私共の腹演説

諸君が諸君の町や村の運動場に於て、體操を稽古し或は敬禮の練習をなさる時、其村の先生が假りに、太郎君、その敬禮は不味い。もう一度敬禮をやり直しなさい」と命じたとすれば、太郎君は仕方がないから、更に敬禮の仕直しをやり直します。然し直ぐ腹の中で、演説が始りませう。「なアんだ、アノ先生は。お辭儀を二遍も三遍もやらせるといふことがあるか。一體敬禮なるものは、外のものとは事違ふ。そんなに強制的に、何遍も要求するものであるまい。斯様な氣持を以てする敬禮ならば、それが五度六度幾度重なつても、諸君の修養上、何の効がありませうか。勉強として修養として立つた場合には、あく迄眞剣に臨まなければなりません。唯今の天子様の皇子殿下

に對して、一臣下の林先生が、先生の道を盡くすために、懼れ多くも御敬禮を、二度も三度も要求せられるのであります。何事も道であります。

第三 公達近衛及奥田

聽て跳箱運動の準備が始まりました。先生は、近衛と呼びました。近衛公爵の令弟なる近衛さんは、「ハイ」と愛くるしい聲で、返事をされました。次には曩に文部大臣及司法大臣を勤められた、奥田義人閣下の令息が呼ばれました。すると奥田さんは、活潑に氣持よく、「ハイ」と答へました。その「ハイ」といふ返事が何とも云へぬ、美はしい聲でありました。學校の先生が、青年や生徒などを呼ぶと、「ホー」などと、氣の抜けた返事を致します。その拙さは一通りでない。まだそれだけなければよいが、直ぐと又肚裡の演説が始まる。なんだあの教員は、俺の名前を失禮にも呼び捨てにした。自分は返事をするんでなかつた。今思はず知らず、返事をしたけれど、今度呼び捨てにすれば、死んでも返事をしないぞ、つまりぬ所に力を入れて、不機嫌になるのであります。之では何を聞いても、何を教はつても、その根本が死んでゐるのであります。近衛さんと奥田さんは、跳箱を運ぶ役目を仰せつかりました。この箱は北海道のシヨウジと

いふ木で作られた者で、中々重い。この二人は、家庭にあつて筆や紙や、本や箸の外には持たない、纖弱い公達であります。顔は赤くして力身を入れて、右一步左一步後一步前二歩といつたやうな歩行の姿で、齒軋して先生の前に、従順に持つて参りました。そこが私共でありますと、直ぐ物置部屋演説が始まります。「大分重いじゃないか、こんなものが二人や三人で、容易に持てない位のこと、先生も大抵判りさうなものか、いやないか、わたしの村の校長先生も、大體常識がない」。大變な所へ鉾先が向いて來るのです。諸君が自分の村や町の運動場で教を受ける時、先生の立場、生徒の立場といふ事をよく理解しなければなりません。先生には先生の道がある。生徒には生徒の道があります。この區別を亂しては、教育の道が成り立ちません。教を受ける時には、如何なる場合も、心を虚うして之に従ひ、之に學ばなければなりません。是れ自己を練磨し、自己を擴充する所以の道であります。その代り解散したならば、先生の宅に押し掛け、先生今日の跳箱の運搬は、大變重かつた、あんな重い者を二人位で運ばされては叶はない。御褒美に何か御馳走をして下さい。」位の注文をするが宜い。この注文には、刺がなく、親みがあつてよいと思ひます。勉強する時と遊ぶ時、公の時と私の時とを、區別してゆき度いものであります。

先生が他生徒に、運動道具の準備や片附を、御命じになりますと、殿下はお自ら率先遊ばして、必らず御手傳ひ遊ばされたとの事で御座います。

又學習院初等科に於きましては、運動器具の尊重觀念を養成するために、手工時間に於て、生徒に肋木用の腰掛を調製せしめましたものを、體操科の時間に使用せしめて居ます。現に高松宮殿下御手製の腰掛が、紀念として同院初等科に保存されてあります。手工時間に於て、體操科の用具としてこの腰掛を調製せしむる着眼と、自ら作り上げた愛ある道具によりて、運動に従事せしむる着眼とは、關係的に餘程良い點があると思ひます。

第四 「散る花を追ふこと勿れ」

平素動物愛護に、お優しき御心を注がせらるゝ殿下は、御避寒のために、暫し御逗留の小田原御用邸にあらせらるゝ折さへも、小鳥を數多御殿の廊下に御並べになつて、時には御手づから、御餌飼を遊ばされました。この鳥共こそ無上の光榮の、持主であつたのであります。

大正五年二月初旬、林先生は何時ものやうに、御殿に伺候しました或朝、殿下には特に

御寵愛深くいらせられました。鸚鵡の空籠を見守つておいでとありました。先生は「殿下、鸚鵡はどうなさいましたか。」

「鸚鵡は今朝ほど、仕人が鳥籠の掃除の際、誤つて逃がして仕舞つたのでありました。仕人は恐縮してゐます。殿下はたゞ一言」

「鸚鵡は逃げました。」

御傍に御供されてゐました御附武宮厚東少佐、この方は現在大佐でありまして、目下大阪の聯隊長をお勤めであります。厚東少佐が

「仕人が今朝誤つて逃がしました」

と言ひもあへず、殿下は極めて御静かに

「出づる月を待つべし、散る花を追ふこと勿れ」と云ふことがあるね、ねえ厚東、

と厚東少佐をお宥めなさいました。嗚呼なんと、勿體ない、なんと氣高い、純の御心、純の御聲でせう。

私共は鉛筆一本とても、吾が持物として愛用してゐたものを紛失してさへ、張合悪いのであります。況んや他人が之を失つたとしたら、一層心惜しい、寧ろ鄙吝の心が止處なく起るのであります。この鸚鵡の逃げたこの夕刻から、天地晦冥の大暴風にな

りまして、萬一に歸るべきかと、お心の中に待たれ給ひし殿下が、その所在を案じやられ給ひしは、想像し奉るに餘りあります。御殿に於ても近所の警察署などへ電話にて、さうらしい鸚鵡がゐたら、知らせ呉れるやうにと頼んでをきました。間もなく近在の豪家から、その鸚鵡を届けてくれました。然しこの時の鸚鵡は、疲労困憊のあまり、見る影もありませんでした。殿下の御いたはし、溢るゝ許りの御介抱を加へられました。遂に譽を雲の宮居の土に残して、落命しました。林先生は翌日斯くとは知らず

「殿下、鸚鵡は如何遊ばしました、」

「歸りましたが死にました、尙ほ」

「ねえ厚東、あの時の鸚鵡の姿は、眼は凹み體は瘦せてゐました。實に慘憺たるものであつたねえ!!!」

實に一場の悲劇でありました。先生は間もなく、學習院の先生方に、この話を致しました時に、當時國語の先生であつた大野木先生は之を聞いて、あゝそれは何時か殿下に、その言葉をお話申上げた事がありました。よくお覺えになつてをられて、御活用遊ばしたが、満足である、とて、涙ぐまれたさうであります。この一事は體育に直接御

關係はありませぬが、殿下のこの御美德を、こゝに記し奉りまして、私共の今後の體的の修養に資し度いと存じます。

第五 林先生の御指導振

同年六月下旬、著くもなく寒くもないほどのよい日の午後、林先生は殿下及御學友を御連れ申して、校内のある杜の中に這入りました。學習院の敷地は實に八萬餘坪に及び、従つて廣々とした運動場が設けられて居ります。少時憩ひ給ふ裡に、殿下の在す程近くの所より、約二尺程の蛇、赤棟蛇アカカシが一疋現はれました。殿下も御學友も、氣味悪しく、思はず二三歩後方に退かれました。殿下及公達は、動物園其他に於て、屢々蛇を御覽になつてをられますが、自然のまゝに現はれた、野生の蛇は、お始めであつた事かと思はれます。且つ思はざる所から、這ひ出したのでありますから、お氣味悪しく思召された事かと存ぜられます。御學友も一度は驚きましたが、やゝありて、珍らしとばかり、棒ちぎり、石などを以て虐め始めました。蛇は恐怖のあまりか、鎌首をもたげて、跳び掛からん氣勢を示すまでに興奮しました。先生の差圖により、聽てこの蛇を中央に、圓陣は作られました。

先生「皆さんは何故蛇を虐めなさる。」

公達「先生蛇の奴意地が悪いのです。」

「人に向つて來るのです。」

「蛇の奴憎いのです。」

凡そ世の中には、色々の動物がありますが、あの蛇程無愛想なものはありません。犬でも猫でも兎でも、それ相應の愛嬌は持つてゐますが、あの蛇に愛嬌があり、可愛らしいといふ人は殆ど少い事と思ひます。けれどもそこは世の中でありまして、この蛇を好まれる方もあります。故日向輝武氏や同夫人であつた欣子女史などは、大變蛇が好きで、常に五六疋の蛇を飼つてゐました。曾て時事新報の記者が、故輝武氏を訪問しまして、蛇の飼養法等を種々伺つた末、是非一つ實物を觀せて頂きたいと、夫人にお願ひしたところ、「わざわざお見せ申上げるまでもなく、あなたのお頭の上の、その電燈の紐にも、一疋の青大將がゐますよ。」と云はれて、思はず願へ上つて、後ろへ跳び退いたと云ふことであります。この夫婦は散歩に出かけるにも、蛇をポケットに入れて、出かけることが始終であります。或時輝武氏は、一疋ポケットに入れて、淺草公園を散歩しました。所が日向氏の顔を知つた拘摸の親分が、同氏の懐に目をつけて、後になり先になり、同氏をつけ狙つて、漸くにして或機會を得て、同氏のポケットに手を忍ばせ、うま／＼財物を引き出さうとした所、是は又意外、その財物は平素と違つた荒々しい手に、喫驚したものが、ガリリとばかり、嚙りつきました。驚いて拘摸は、其場から逃げ出した。翌朝、日向氏の所へ、一通の無名の手紙が配達された。開封して見ますと、「自分は昨日淺草公園で、貴下の懐中物を失

もたげて慈眼を殿下に注ぎました。林先生の眼には淡い涙が輝きました。やがて体操始業のラッパが響き渡りました。殿下はこの蛇とすげなく交渉をお絶ちになることは、到底忍ばれません。

「御殿へ持つて行き度い、」

と仰せ出されました。事が偶發にて、用意の容物とでもありませんので、先生は、穿いてゐられた長靴の片方を脱ぎまして、その中に蛇を入れやうとされましたが、甘く這入りませぬので、御學友が持つて來ました、バツクの覆布で包みまして、体操教室の一隅に置くことになりました。

「殿下斯うして置きますから、本日の課業をお了ひになりましたならば、この蛇をこの儘御持歸り遊ばしても宜しう御座います。而して牛乳と玉子を、一ぱい御馳走してやつて下さい。然らば一週間二週間の後には、今誠に御氣に召さない、この赤棟蛇の面相が、自ら憎からず、變つて來るでありませう。四週間五週間經つに随つて、山カバシは愛くるしい姿になるでありませう。是れ實に殿下の御修養の一端になりませう、」

この光榮ある赤棟蛇は、体操教室の隅で此日、殿下の御歸りを待つことになりました。

以上を準備行爲として、茲に一時間林先生はこの心を以て殿下に体操を御教導申し上げました。運動道德を達成すべき、運動教育の準備運動として、誠に相應しい内容であると思ひます。殿下は放課後之を御殿にお持ちになりました。

林先生はフト、そこまで教育の道程をば、運んで見たもの、御殿で蛇を持ち込まれては、定めて迷惑を感じらるることであらう、と考へつきました。早速時の傳育官長三好愛吉閣下の許に参りまして、

「實は本日斯々の次第で、斯々の御教訓を申し上げました。しかしあの蛇をお持ちになつては、御殿の方で定めて御困りでありませうが、後の所は、然るべく閣下に於て、御整理願ひます、」

と申し出でられました。この時三好閣下は、兩眼に涙を堪へられて

「あなたの体操は、單なる体操でない。實に体操教育であると、常平素、内心感謝してゐました。今日といふ今日、その心を擴大されて、殿下に御訓諭下された事は、誠に有りがたい。傳育官長唯々感謝します。」

林先生の運動教育の御力を、安心して殿下の御精神の上に伸ばさせました、影の力、力の先生は、三好愛吉閣下であります。

第六 ベースボール

毎日晝食後、御寮の前の御庭にて、殿下始め御學友は、キャッチボールの御稽古をいたしました。成瀬君は或日しかみ顔を反ひけて、球を受けました。然も之がために、球を受け損じました。此時先生はこの公達に向ひ、その態度の見苦しい事を教へ、且つ「球が體に當つてさへも、顔を反ひけるやうな事ではならない事を諭されました。

凡そ教育は、正課時間の正面の不自然の教訓よりも、隨時隨處に現はるゝ自然の事柄に對して、平素抱持する教育の根原より、一技二技を提げ出して、教訓する事の方が活きてゐます。體育運動の時間のみに、體育の運動教育があるのではありませぬ。今日の狭義な運動精神を、廣義に擴大擴充せねばなりません。要點は事の前後にあるのであります。技術技巧を教へるのではありませぬ。其の精神其の態度を先づ指導するのであります。「球が體に當つてさへも、顔を反ひけるやうな事ではならない。」皆さん、この球はロインテニスの球とは事違ひ、大層硬い球であります。之が皆さんの體に當れば、大變痛いでありませう。併したとへ何處に中つても、痛いなど、一言仰せられてもいけません。若し痛いなどと仰せらるゝならば、御修養としての

體育運動にはなりません。

何といふ細心な、何といふ教育的な出發でありませう。私共のは、子供が野球を歓迎するから位に、徒らにやらせるので、體育運動の精神を没却して振出してをるのであるから、弊害の盡くる所がない事に、終るのが、當然であります。所謂、物同じ用同じからず、で、用ゐる物は全く同じ物でありますが、その運用上の着眼振出及途行が、全く違つてゐるのであります。

第七 御二方殿下の雨中體操

時は大正六年春まだ淺く、鎌倉の御別邸にも淡い小雪など折々見ゆる時の事、皇后陛下には、鎌倉御用邸へ、行啓遊ばされまして、淳宮殿下及御學友五名、高松宮殿下及御學友五名の御勉強の状況を、御台覽遊ばさるゝ事になりました。空前の御事のように、御二方殿下には、御母宮陛下の御迎へのために、何くれとなく、御備準おこたりなく、いそぐと御立振舞はせ給ふ御心に、御親子の美はしき情の拜察せられました。陛下の御座所は、御殿御廊下際、御運動場は御中庭、林先生は器械の配置にも、お近過ぎても御無禮と考へ苦心中、高松宮殿下が

「林先生、陛下は御目が近う御座いますから、あまり器械が遠くては、お見えになりません。」

など申され、此處よ其處よと御加勢にて、前日の御準備が整ひました。

夜來揚柳の枝を梳りて、静かに降り濺ぐ細雨は、朝來篠突く陰雨、盆を覆へすが如き猛雨となりまして降りしきるのであります。朝來の強雨に加ふるに寒氣いや増して體操だけ台覽に供ふる事は叶ふまじと、殿下始め御落膽しほくとした御姿であらせられました。御着鞞後より、いよ／＼猛雨となりました。

諸君、この猛雨の中に體操は實演される事になりました。此事可愛い御子に旅の御情愛のほどを拜察し奉り、私共は且つは喜び且つは驚くのであります。この大御心、蓋し何事も教育であるの御意であつたと、拜察致されます。

最初淳宮殿下のお組、白木綿の半袖襦袢衣御一枚になつて、殿下を先頭に降りしきる雨のみぞれさへ交る中に、健氣にも雄々しく、雨に煙る御用邸の御庭に御整列、一禮の下に運動開始、しと々降る雨を物ともし給はず、殿下は、運動帽子より流れ落つる雨滴が、御眼に流れ入り、時々はしばだゝきせらるゝ有様であります。特にあの横木應用の平均臺は、殿下の御得意とせらるゝ所、十段といふ最高の高さ、凛々しく御渡りあらせ

られました。林先生は、ポケット一杯に用意したる布片もて、殿下の御進行の、一步前一步前を拭はれて、萬一の心配をせらるゝ苦慮、如何ばかり、察するに餘りあります。

最後のバツク跳は、殿下御自身號令をとられ、學友御指揮の有様、模範跳の要領など、めざましくありました。小歇みなき雨に溶しまして、殿下は全身水びたりになられましたが、はち切れん許りに張り切つた、火のやうな御心で、重苦しいうすら寒い空気を、搖がせてゐらせられます。廿分後終つて、殿下の御指揮の下に陛下に敬禮、御退場。

代つて高松宮殿下の御組、之亦兄宮の御組と、遜色なく御立派になし終へ給ひ、絞る如き濡衣にて、御退場遊ばされました。この様を御覽せられた、御母君陛下には、如何に御いとしく御感じ遊ばされたでありませうか。殿下の御ため、殿下の御教育とは申しながら、御いたはしさに堪へ給はざりし事と、拜察する外ありません。臣下陪觀者一同、蓋し無言、暗然、偉大なるインスピレーションにうたれたのであります。

林先生には、萬一殿下が御病氣にでも罹らせられましたは、恐懼の至りであると考えられまして、非常に心痛めて、約一時間の篠衝く雨の中に佇立、御運動を注視してゐたさうでございます。引き續き先生は、傅育官長の御依頼により、鎌倉御用邸より一週間の御暇を頂きまして、仙臺市に於て體操講習を行ひました。その前の年、淳宮高松

宮皇子御二方殿下には、東北地方に御旅行遊ばされました時、殿下より特に仙臺市に、體育御奨励の御意味の、御下賜金があらせられました。之が爲め仙臺市は、先以て教員の體育指導の力を養成するため、三好閣下に講師の選抜依頼を依頼され、閣下は先生に御頼みになられました。茲に先生は始めて、體育講習會なるものに、助手福島徳寧氏を御同行にて、同市に臨まれました。仙臺市の某教員より、洩れ聞く所によれば、講習後、市長より先生に謝儀を出されましたので、先生は一度頂き、改めてその金は、同市の體操器械設置費の中に、寄附を申し出でられたさうであります。此の嚴寒の講習にて、御體を御無理なさいましたため、健康を若干損ぜられました。暫らく御静養なさる事になりました。此後高松宮殿下の、海軍兵學校御入學まで、同殿下の體育御指導を參らせました方は、陸軍戸山學校教官歩兵大尉小野原誠一先生であります。

一、菓子一折

右淳宮高松宮殿下ミリ病氣ノ御尋トシテ

被下候條此段申入候也

大正六年四月二十四日

皇子傳育官長

三好愛吉

學習院御用掛林保吉殿

第八 親切なる大木少佐

私は昨年一月、東京に参りまして、殿下の劍道指南をなさつてゐる、當時歩兵大尉の大木健次郎先生から、殿下の御事についてお聞しましたところを、お告げ申し度いと存じます。

この方は學校教育、就中國民教育及初等教育に甚大なる同情と、熱と、理解とを持つてゐらるゝ軍人であります。例令ば一昨年十二月の中頃、山口縣下の校長の一團が、士官學校の視察に参りました。當時、士官學校附の一副官中尉が、その一行を案内して、校内の一般状況を見せようと、應接室を出た時、廊下に於て大木大尉に出逢ひました。大木大尉「この一團は教育者らしいがどこの方ですか、」

副官「山口縣の小學校長の一團です、」

大木大尉「然らばこの先生方は數ある先生の中で、最も尊敬すべき、お國の基本教育を司る、初等教育の校長先生である。要する所、この先生方は教育御勅語の先生である。さうして今の今勅語の御精神の生神様であり、御卵子でゐらせらるゝ、淳宮殿下には、この寒風に、吹き曝されつゝも、御汗を流されて、眞劍に體操の御稽古眞最中、

である。この御姿を拜させ申すのは、本来表向出来ないことではあるが、教育勅語の先生だから、取計つて御見せ申し度い、と勤めて下さる熱と理解とを有せらるゝ、軍人でありませぬ。副官も大木大尉の熱心なる勸誘に動かされて、遂に一團に殿下を遙かに拜ませたといふ事でありませぬ。

第九 教練の精神

殿として衆雲を拂つて屹立して居る、磐梯山の裾野に、壯麗を極めた猪苗代湖を控へて、春夏秋冬小鳥の鳴く音の歇まぬ仙境翁島村、その名さへも幽雅な翁島村の、物靜かな湖畔に高松宮殿下の御用邸があります。北面して巨山磐梯の壯觀を眺め、南面して雄大なる湖面が眺められます。

磐梯山は、明治二十一年七月十五日大破裂をなし、小磐梯と稱する一峯を飛ばし、昇騰する黒煙柱状をなして、天地晦冥頗る慘憺を極めました。この噴火は本邦近年の大變事でありまして、近傍諸村落人家の埋没或は破壊せしもの凡そ百戸、死傷せし者五百餘人、牛馬の斃れた者五十七頭、其他幾多の田園財貨を埋没した事は、數ふ可から

ざるものでありました。この山は一名會津山と云ひ、高さ六千五百尺あります。

磐梯山春説

大槻磐溪

三峰標嶽香羅攀。百仞丹梯天際磐。莫是群仙游戲會。瑤笙聲在彩雲間。

猪苗代湖は、東西四里二十町、南北三里十八町、周圍十六里の渺茫たる大湖でありまして、琵琶湖霞ヶ浦に次いだ、本邦第三の湖であります。磐梯の山影湖面に離し、風景畫くが如く、眞に壯麗を極めてゐます。

さゝ波や打田の濱に出し月を會津の海にうつしてぞ見る

惟足

小さいが品よく建てられた、磐越西線の翁島驛に下車して、凡そ二十町の地點に、この大自然の氣の中に漂ふ、高松宮殿下の御用邸があります。

大木少佐が、曾て中尉の頃、會津若松聯隊に職を奉じてゐました。當時淳宮殿下、御數へ年十四歳であらせられました。大正四年翁島御用邸に御避暑中、八月十日頃の眞夏の土用の或る日、汗膏が瀧と流るゝ炎熱の或る日、淳宮高松宮兩殿下には御學友御附の方々と共に、焼きつくやうな光線を浴びつゝ、自轉車にて、動物採集に御出かけになりました。やがて種々の採集を了らせられ、午後四時頃長濱といふ湖畔までお歸りがけになりました。恰かも大木中尉は、若松聯隊の兵卒二百餘名を引率して、湖畔

長濱に水泳の稽古に参つてゐましたが、兵隊の大童の泳ぎの騒ぎもやみまして、今や小波立てる湖の邊に上つて、一同濡れた禪などを外して居りました。遽かに樹梢の



秩父宮殿下の水泳の英委

蟬聲納つて、清爽の氣が邊りを拂ひました。直ぐ手近の林より現はれました。兩殿下御一行のお歸りを拜しまして、一同俄かに仕度を仕直さうとしましたが、餘り突然であり、且又、思ひ設けぬ際であり、さすがに敏速を誇る兵卒等にも間に合ひません。御一行は眞一文字にお近づきになります。

茲に於て中尉は突差の間に、軍隊の規定に基き、中隊の兵卒に對して、氣を付けの號令をかけ、大木中尉自身は、舉手注目の敬禮を送られました。この姿を御覽になつた淳宮殿下には、唯々お驚きになつたといふことであります。それも道理、二百名の中百五六十名は、禪を締直す間もなく全

く赤裸々であつたのであります。殿下の御身分で御自身が、さういふ醜い姿を御覽遊ばしたのは、お初めてであつたに違ひありません。殿下は御殿に御歸りになりますと、厚東お附武官に

「厚東、今日の氣を付けの姿勢は、大層醜くかつたね、
と仰せられたさうであります。この時厚東御附武官は殿下に對し奉り、

「それが外國の兵隊でありましたならば、あの場合兩手を以て、醜い姿を隠しも致しませう。併し日本の兵士は、一度、氣を付けの號令がかかつた以上、たとへ弾丸が飛んで來ても、蜂が頭を刺しても、手は頭にあげません。右横腹に弾丸を打ち込まれましたとしても、其の傷口に決して右手を持つて行きません。若しここに一團がありまして、この一團の處へ大砲の丸が落下しても、榴散弾が雨下しても、時が氣を付けの號令の掛かりました時である限り、一隊悉く仆れても、そこを動きません。それが日本軍人の魂であります。殿下の御前にあの醜體を曝すといふことは、誠に恐れ多いことであります。軍隊精神の上、教練の精神の上、恐れ多くも失禮しまして、あの姿を保つのであります。」

と御説明申上げました所、

「日本の國の教練の精神といふものは、さういふものであるか。よく判つた。さういふ教練の精神で鍛へ上げられた、日本の兵隊ならば、何處の國の兵隊と、戦争して

も負けないね」

とて、非常に御満足にゐらせられたさうであります。

當時陛下から、大きな西瓜が、殿下へ送られてありました。御怜悯なる殿下は、直にそれを指され、

「厚東、今日はよい勉強になつたから、御褒美にあの西瓜をみんな、彼所にゐた兵隊に、配けて上げやうではないか、さうすれば兵隊は、明日湖水で西瓜取りをして嬉しく遊ぶだらう、」

と仰せ出されました。この時、厚東少佐は、お情け深いお心に感激しましたが、

「殿下。それは誠に良い事でありますが、折角の陛下よりの思召でありますから、一個だけ長濱に贈らせられては如何でございますか、」



陸軍歩少尉秩宮殿下の西瓜とての御英委

と御相談申上げ、早速右一個の西瓜を、長濱まで届けたといふことであります。この恩命に接した將卒は、如何ばかり感泣したことでありませう。斯くして十三日には午後一時より、長濱にて西瓜取りを演りまして、淳宮高松宮兩殿下の御台覽に供しました。

第三節 陸軍士官學校時代

第一 ローテニス

殿下は、常に御體育運動に、心懸けさせ給ひますが、庭球は殊に御堪能であらせられました。然も其の御運動振は、頗る御元氣であらせられました。拜見致しまして、實に痛快を感ずるのみならず、其の御進退の公明にして、一點の私心なき紳士の御態度は、眞に御美はしくゐらせられます。皆の者が、逆も駄目と斷念しさうな球でも、顛倒遊ばされん許りに、御體を捻つて烈しく打ち返し、飽く迄御奮闘遊ばされ、如何に御苦戦の際も、泰然として競技を遊ばせ給ふ御氣色に、誠に武士的精神を發露遊ばされます。時に球が轉々しまして、校舎の床の下に轉げ込む様な場合には、殿下には何の御猶豫もなく、畏くも御自ら御姿勢を低くされまして、椽の下より球を取り出させ給うた事

も、屢々であらせられました。

大正九年末の某日の午後、殿下は中庭の庭球コートに於て、僚友と共に至極御愉快にラケットを振つて、御出で遊ばされました。そのうちに餘り御活動が劇しかつた爲



。委英御のスニテ：1ロの下殿宮父秩

めに石に躓きまして、あの磔の多い中庭に、御顛倒遊ばされました。殿下には直ぐ御起き上り遊ばされましたが、拜見すれば、右足の小指に御負傷遊ばされ、御出血が尠くない様であらせられます。御對手を承つて居ました生徒等は、大變に驚ろきまして、直ぐ醫官の御治療を御受け遊ばさるゝ様に、頻

りに申し上げましたが、殿下は僚友に心配させるのを、反つて御氣の毒と思召さるゝ御模様で

「何んでも無いんだよ」

と、御自らハンカチーフにて、小指を御縛りになり

「さあ、續けてやらう」

と、御平氣で夕方近くまで、今までの通り御勇壯な御運動を、御續け遊ばされました。御負傷に就きましては、御一言も無いのみか、痛むやうな御舉動も、全く無かつたのであります。生徒等をして、心痛せしむるのを氣の毒と思召さるゝ御同情心は、誠に有り難い次第であります。

第二 實戰的の御動作

大正十年二月十八日、代々木練兵場に於きまして、小隊教練が行はれました時の事でありました。嚴冬にして霜解け甚だしく、練兵場は殆んど一面の泥沼でありました。「折敷」の號令が、小隊長から掛けられました。殿下には、列兵として在らせられました。が、御嚴格に泥土の中に軍袴を潤しまして、御肌に徹するにも拘はりませず、平然正規の御姿勢を御取り遊ばしました。殿下を動かす唯だ一つの觀念は、正理あるのみであらせられます。

第三 劍道の御練習

剣道の御自習を命ぜられました時は、殿下は特に御精勵にて、種々御工夫を凝らせ給ひました。某日の午後、軍刀術の御練習を行はれました時、殿下は何時ものやうに、助教の教示する所に従ひ、専念御稽古遊ばされましたが、次の教練の時間に拜しますれば、殿下の左手の小指の尖端が、豌豆大に御皮膚が破れまして、御出血は遊ばされざるも、御肉が現はれまして、如何にも痛々しげに、拜せらるゝに拘はらず、殿下は何の御痛痒も無き如く、教練に御従事遊ばされました。是は前記剣術の際、助教が、竹刀を用ゐるには、左手の小指に力を入れることが大切である旨の、御説明を申し上げましたのを、御心に留めさせ給ひまして、此の事に向つて、熱心に御練習遊ばされました爲めに、畏くも御皮膚を破らせ給ふたのであります。

第四 露營の一夜

大正十年五月十七日の事、生徒隊は千代田岡附近に於きまして、天幕露營を行ひました。殿下は此の時、幕舎構築掛として、任に服させ給ひました。幕舎の綴合に誤りがあつたのに、一生徒の其儘作業を續けやうとするのが、殿下の御眼に留まりました所、「今はさう急ぐ場合でないから、誤りの無いやうに、正しく儘へた方が良いよ。己が

遣つてやらう。

とて、頬を御厭ひなく、御自ら綴合を解かせられ、根本より正則の方法に則りまして、堅確な幕舎を御構築遊ばされました。此の構築が出来上りますと、又御手の汚れますのを厭はせられませず、御手づから土塊を運び幕舎の下際の空隙を填め、敷藁を運搬して、之を幕舎内に設備致されました。

夜に入りまして、殿下は一同と共に、此の幕舎内に御食事を召させられ、快談を御交へ遊ばされました。

聽て一同相並んで伏せりました。殿下も、地上に敷きたる粗雑な藁の上に、堅き背藁を枕となし、御満足なる御安眠に入らせられました。

第五 「天の恵だ」

習志野に於きまして、雨天に演習を行はせられました時、陸軍墓地の森で、生徒と共に御晝食を聞召されました。葉末の雨滴が、點々として、辨當行李の御麥飯を侵しました。殿下は「

「天の恵だ」

と仰せられ、水筒の栓を抜かれまして、雨滴を受け入れさせ給ひました。些事に似てゐますが、亦以て剛健の御風格を拜し奉ることが出来ます。

第六 「部下を犬死させないやうに」

大正十年の大演習の連合演習に方りまして、殿下には支隊の尖兵長として、中野町南方の薬師堂に至り給ひし時、敵騎兵數名が、神田上水の橋梁を破壊して、之を守備しあるを知り給ひ、之を撃退せんがため、部下の中一分隊を、御差遣あらせられました。此時該分隊は、前方に横はる細流を避けんがために、敵の直前を少しく左方に移動して、橋梁を渡らう氣勢を示しました。殿下は之を嚴に叱咤し、細流を徒渉して前進すべきことを命じ給ひ、遂に敵を撃退するの目的を、達せさせ給ひました。この演習後、「先程徒渉を命じたのは、實に氣の毒だったよ。然し小隊長として、部下に犬死させない様に、最善の方法を盡すためには、止むを得ないからね。然し實に氣の毒に思つた。」と仰せ遊ばしました。

第七 登山の御趣味

大正十年十月、前橋地方の現地戦術の折、伊香保温泉に一泊した翌日、生徒に自由行動を許されたので、殿下は相馬山の御登山を、御決行遊ばされました。多くの生徒は、連日の疲労のため、登山を思ひ立つ者少なく、御伴申し上げたのは、御附の者の外に、生徒は僅かに二名に過ぎませんでした。「ヤセオネ」と云ふ峠までの間に、旅人が二三次休憩するのが常であります。殿下には、一氣に然も近々三十分位で、此處まで御登りになり、一寸小憩の後、相馬山に御向ひ遊ばされました。頂上までの間には、鐵鎖に絶つて攀ぢ登る場所が二箇所、梯子を掛けてある所が一個所といふ位に、險峻な山であります。殿下は先登でぐんぐん御登り遊ばしまして、御伴申し上げた生徒等も、實はへとくになりました。此折殿下には

「第一區隊は、何うも元氣がなくていかん。今日なんか、殆んど山登りもせなくて駄目だ」

と、御慨嘆あらせられました。

第八 御寛容

戸山ヶ原に於きまして、防禦の演習が行はれました折、殿下は數名の生徒を率ゐさせられまして、斥候勤務に御服し遊ばされました。其處此處の芝草の上には、修業盛りの青年が、天下の大勢を餘所にして、呑氣さらに寝轉んで居るのに、殿下は流汗淋漓として、御軍務に御勵みになられたのであります。何たる對照でありますか。

斥候は菓子會社前の踏切に達し、任務に基きまして、番小屋の横手に隠れまして、警戒に服しました處が、突然番小屋の中から、老爺が出て來まして、いきなり

「いくら兵隊だと云つても、餘り横着過ぎる。人が折角一年中苦しんで作つた菊を、そんなに大きな靴で、踏み躪られては、溜つたものじゃない。出て下さい。」

と、非常な權幕である。下を見ると、成る程貧弱な菊が植えてある。或る生徒は「何うも氣の毒な事をした。」

と謝しました。斥候は其處を避けて、近くの他の地點に移りました。殿下は、始終御一言も發せられませず、御微笑して御出でになられました。演習が終りましてから「あの爺さん、なか／＼面白い人だ。」

と仰せられました。番小屋の老爺も、若し此の御一言を傳へ承つたならば、恐縮して有難涙を零すことでありませう。

他の演習の際、斥候として一民家の庭に御這入り遊ばした時、其の家の者、殿下と知らないで、叱るやうな口調で、退去を迫つた時に、殿下は快く之を容れさせられ、微笑し給ひて

「すまなかつたね。」

と仰せられました。寛仁大度、洒々落々の御態度に、誠に御敬服し奉るのであります。

第九 村童の危険を救はせ給ふ

大正十年十月、前橋附近の現地戰術の際の或る日、殿下は市の北方約二里の、田口電車停留場附近の、電車線路に近く在りました給ひし折柄、一人の小學校生徒が、電車の進行し來るのに心附かずして、放心の體で線路を横切らうとしました。

電車は轟然咫尺に近づきました。危険は眼前に迫りました。この狀を御覽じ給ふた殿下には、咄嗟に身を挺して、兒童に近づかせられ給ひ、其の帶を掴んで線路外に押し出し遊ばされました。此の子は、殿下の御手に、命を拾ふたのであります。

第十 村童に親しませ給ふ

この年この月、其の後殿下には、榛名湖畔に於て、御晝食の御休憩を行はせられた際に其邊りの十歳位から十三四歳の、大分汚れた服装をした数名の子供が、戦争遊戯でもしたのであらう、竹木紙箱で擬造した銃劍、彈藥盒等を携へまして、がや／＼と士官學校生徒に近づいて來ました。殿下は、甚だ興あることに思召され、汚いことなどには御構ひもなく、此の子供等に御近づき遊ばされ、色々温かき御言葉を賜はり、又この少年軍の武器を御覽遊ばされまして、無邪氣な田舎の子供を御對手に、御機嫌殊に麗はしく、休憩時間を過ごさせ給ひました。

第十一 「淳宮は心愧かしい」

殿下の士官學校御在學中、同校生徒の演習が、某地に實施されました。然るに當日は大變な暴風雨でありまして、當夜は雨中露營をすることになりました。殿下には金枝玉葉の御身を以て、之まで露營されたことも、數度ありましたが、雨中露營は、この夜が御初めであつたさうであります。殿下の御友達達は天幕の中に、皆グウ／＼軒をかいて眠込んでしまつたさうであります。然るに殿下のみは外の面を荒狂ふ怒濤の如き風の音、天幕に横し／＼瀧の如き雨の音が、徒らに御耳に打騒ぎまして、遂に一睡も取ることがお出來にならなかつたのであります。翌日の朝、同中隊の生徒が「殿下。昨晚はよくお眠みになられましたか、」とお訪ね申上げますと、殿下は

「淳宮は心愧かしい。昨夜君達は、高軒でよく寝ましたが、淳宮は遂に一睡も出來ませんでした。是の如きは、實に昨日の演習に於ける奮闘が緩慢であつたことを意味します。若し昨日猛烈に奮戦し、身體棉の如く疲れて居たならば、環境がどうあらうとも、心地よく眠れたに違ひない。實に慚愧に堪へぬ。この次ぎには出來得る限り奮闘して、氣持よく眠らなければなりません、」と仰せられました。

其後の演習に於きまして、露營をなさいました時、殿下はよく御熟睡遊ばされました。此の時友人は殿下に「昨晚私共はよく寝むれませんでした、殿下には御睡眠がとれましたか」と御たづぬ申し上げました處、殿下には「昨夜はよく眠むれて實に氣持がよい」と仰せられました。

同年十二月の中旬、曾て皇后陛下の御師であらせられました下田歌子先生が、御殿に参内いたしましたして、親しく御機嫌を奉伺しますと、陛下には御機嫌斜ならず

「下田先生、御悦び下さい。淳宮も御かげで一人前になりました。追て先生方には、又改めて御禮を申し述べやうと思つて居ります。」

と仰せられましたさうであります。夫れは前述の淳宮殿下の御事をおき、遊ばされました御満足のお言葉であつたのであります。

實に殿下のこの御自省は、我々臣下に大なる衝動、大なる感激を與へられます。「淳宮もだん／＼人になりかけました。」と仰せらるゝ、陛下の大御心に至りましても、お國のために、陛下の御徳に、たゞ／＼感泣するの外ありません。斯くも御教育に御熱心なる、國母陛下を上戴く我々は誠に幸福であります。

第十二 小隊長としての殿下の御徒涉御突撃

大井司令官の命によりまして、士官學校の生徒は、大正十年十一月十九日二十日の二日間、武相地方の陸軍特別大演習の最後に、近衛師團に隷屬して参加することになりました。十九日午前十一時頃生徒隊は、軍命令に基き、駒澤練兵場に集合し、殿下もこ

の生徒隊の一員として御参加あらせられました。この夜下仙川より用賀附近に移動した生徒隊は、拂曉に至る迄、該地附近に於て、村落を利用して休憩致しました。疲勞と睡眠とに襲はれました各員は、家屋の軒端庭園の片隅、納屋の側壁等に、位置を求めて休憩に就き、多くは直ちに眠に落ちて、復た隻語を發するものもありませんでした。此の際殿下には、小隊長として、些の御疲勞の御模様もなく、御手づから火を起させ給ひ、此處彼處に眠れる部下を一一揺り起し、暖を採るやうに御奨め遊ばされまして、一同は再び生氣づきました。

十一月二十日拂曉、東軍は起つて攻勢となり、生徒隊も亦直ちに第一線に加入して、攻撃に參與しました。東西兩軍の雌雄を決すべき最後の一戦は今日ぞと、戦線一帯に緊張せるこの日の朝まだき、五時十分、星影も消えやらぬ中に、早や轟々と兩軍の火蓋は切つて落されました。間未だ拭ひ切れぬ空には、兩軍飛行機互に陣地を偵察すべく、爆音を傳へますが、機影は更らに見えない。突如、天の一角より投下した照明弾は、流星の如く中空に輝きまして、陣地に據る歩兵砲兵の頭上を照すと見た、野戦電燈隊は、すわ敵機よと、探照燈を高角度に差向くれば、悠々と翔ける敵機の姿、俄然高射砲は轟然として打出されました。斯くして拂曉の戦が地上と空中に交はされて居る間

に、東天漸く紅に輝いて、玲瓏玉の如き多摩川に映り合ふ風景、真に血汐湧き肉躍る若き男の子の胸のときめきを禁じ得ません。この美しく裝飾された槍舞臺に、東軍砲



玉川御渡渉御突撃の

兵の第一弾は、開戦の合圖の如く、大決戦の幕はこゝに開かれました。戦闘既に酣にして、生徒隊正面の敵は、退却を開始致しました。生徒隊は之を追撃しまして、深く敵線の中に進入しました。殿下は此の際小隊長として、先頭に立たせ給ひ、部下を鼓舞して、勇躍進撃に移り給ひ、其勢の猛烈なること、鬼神も之を阻むべからざる程でありました。既にして多摩川の本流に達するや、殿下率先一番、多摩川の激流に御身を入らせ給ひました。矢の如き急流、御胸に届かんず水深、白く泡立つ中を慕らに御進みになりました。御足は時に流れにさらはれ給ひ、殊に河床の砂利を堀り取りました穴に、二回迄も御足を滑らせ給ひ、御肩の邊り迄



秩父宮殿下の御英委

も水に濡れさせ給ひまして、水底深く御倒れ遊ばされはせぬかと、手に汗したことでありました。時は十一月末つ方、冷氣身に染む早朝、金枝玉葉の御身を以て、御腰より御胸、御胸より御肩までも、水に洗はせつゝ、軍刀を振り翳して、生徒隊の先頭に立ち、猛進し給へる御有様は、誠に軍神の化神かと、仰がれたのであります。殿下の御身邊には、數名の將校が御擁護申し上げまして、この中に大木大尉殿も居られました。且つ自然に部下の生徒が集まりました。人筏を組む様に、真黒に固つたのを目懸けて、敵の飛行機が二回も、僅々四五十米の低空まで降つて攻撃し、對岸の敵亦猛射する中を、水烟立て、急流を押し涉つた状は、實に壯絶を極

めました。斯くて殿下には、真先に對岸に馳せ上られました。對岸の堤に雲霞の如く集つて居

た観衆は、目のあたり此の光景を拜しまして、如何に感涙に咽んだ事でありませうか。紅葉黄葉に彩飾せる、多摩川畔の美はしき秋の山野も、歩兵聯隊にて埋められまして、千戈愈々相摩するの大白兵戦に移らんとした時、午前八時四十分唳々として休戦喇叭は、全線に鳴り響きました。

演習後、御側近の某候補生に、己は二度轉んだよハハハ……と仰せられたさうであります。聽て各隊集合の時、大隊が喇叭を吹奏して、群集を押し分けて進みました時、殿下には大隊の先頭小隊長として、濡れに濡れたる御服の儘端然として御進みになりました。之を拜しました兩側の人々は、浮べた涙で殿下を拜むことが出来ませんでした。合掌して殿下を拜む老人も見えました。

長くも皇太子殿下には、前夜御野立所に御露營あらせられ、午前四時三十分御起床、同五時御朝餐も召させられず、且つ寒風の御厭ひもなく、戦闘酣なる裡に、御野立所に起たせられました。其凜然たる御英姿は、自ら萬物を風靡し、御統監の最後に、一層の光彩を添へ給ふたのであります。

朝風に翻る皇太子旗は、旭光麗かに映じて、四方に洽くも亦神々しく拜せられます。午前九時殿下には御愛馬進風に召させられ、各皇族、上原參謀總長以下、幕僚を従へ

せられ、休戦令によりて、銃劍のまゝ屯する、多摩川畔の第一線を、御巡視あらせられました。疲勞せる兵も馬も、尊き御姿を拜し、勇躍して奉迎したのであります。

一方淳宮殿下には、御脚は云はずもがな、御胸中ばまで、づぶ濡れのまゝにて、膚を刺す如き寒風に曝されまして、御痛ましくもブル／＼と、胸振ひをなさつてゐらせられました。聽て淳宮殿下は、儼乎として舉手注目、御兄君殿下に送られました。御兄君殿下はいとほしき弟宮の、この御奮闘の御姿を御覽遊ばされ御心中御感慨の、如何に深かつたことでありませう。又弟宮も、雄々しき御兄宮の御英姿を仰がせられて、如何に心嬉しく感ぜられたことでありませう。御二方殿下の體はしき御腫と御腫の交はされました瞬間、誰れ號令を掛けるものもありませなんだが、誰れ合圖を取るものもあらなんだが、竹の園生のいや榮えに榮えますこと、御國の礎のいや増しに堅きことに感じまして、群集は齊しく、喉も裂けよとばかりに、萬歳を叫びました。

凡そ此の如き崇高にして且つ神秘的なる光景は、恐らく人間の世界に存在し得る、最も美はしきものゝ一つでありませう。群集は我國體の基礎が、最近の新思想によりまして、決して微動だも感じて居るものでないといふ、一種の強い信念を、獲得したのであります。

第十三 「淳宮一人に足袋は要らぬ」

私は昨年一月十八日、大木先生の特別の御情により、殿下最近の體操の御姿を、拜見さして戴くことによりまして、上京いたしました。折悪しくも此日前夜來の大雪にて、東京は、九寸餘り積みました。従て御日課は御變更になりました。御體操を拜見することが出来なかつたのは、千載の遺憾でありました。

緑の木の葉が一枚／＼と枯れて、秋の情趣が深くなつたと思ふと、やがて霜が降り、落魄の冬が來ます。靜かに黙々として降りしきる、白雪皚々たる高臺、今は士官學校、昔紀州侯のお屋敷跡目掛けて、羽二重のやうな雪を、紺を踏むやうな音さして、あの傾斜ある坂を辿りました。大きな自然が、眞白な雪に蔽はれて居ます。詩人でもあらばこのお屋敷の壯觀を表現してくれるであらうと思ひました。別けて年々陛下よりその手入れとして、特に多額の御下賜金を頂いてゐる、二本の老松、鎧松の姿は、何とも言ひ得ぬ風情を示してゐました。當時殿下は東皇族舎に、御起居遊ばされてゐらせられました。

遙かに殿下が、軍曹の御軍服を御着になつてゐる御姿を、拜することが出来ました。

殿下は廊下に於て、故參軍曹に御出會になりましたが、御姿勢を正されましていと御嚴重なる御敬禮を送られました。殿下の御敬禮も御答禮も、御嚴格に御叮嚀に在らせられます事は、實に恐れ多いのであります。其時私は感じました。實に世の中に秩序程權威あるものはありません。殿下が御軍服を御脱ぎになりますれば、竹の園生の御身分でゐらせられますが、軍曹の御軍服を、御着になつて居らるゝ時は、飽くまで軍曹としての御秩序を守られるのであります。誠に畏れ多い次第であります。私共は今後大いに現代思想を研究して、現代體育に流し込まうと存じますが、この秩序精神は、嚴乎として確守したいと思ひます。凡そ如何なる事も秩序を失へば亂に陥ります。

大木先生は、劍道教官として、戸山學校教官より、士官學校教官に轉ぜられたのであります。先生は、殿下の劍道の御相手を參らすにあたりまして、御籠手と御胴は、強たか打込まれましたけれども、御面だけは、靜かに叩き參らせたまうであります。生徒一同も、御面は御遠慮申上げました。然るに賢明なる殿下は、直ちに其處に御氣付になりました。

「君達の御面は和らかくあたる遠慮なく確つかり叩け、」

と仰せられました。抑も剣道は他の體育運動と異り、或る物を以て、人體を叩く形式の特種の運動でありまして、如何に先生とはいへ、殿下の御頭に強く打ち込む事は、一應遠慮されたのであります。其後は何の御遠慮も捨てまして、御頭へ強たか打込んで居ると云ふことであります。やがて私は剣道場に案内されました。殿下のお席には、剣道具一式、大中小の竹刀三本、木刀、日本刀、足袋が整頓されあるのを拜しました。殿下の御足袋は餘り大きいので、何文でありますかと御尋ねしますと、十一文半であるとの事でありました。殿下は當年數へ年二十一歳、御體重十六貫餘、御身長五尺六寸二分、足袋が十一文半と云ふ御立派な御體格の御持主であらせられます。本年の寒氣は格別の寒さでありました爲め、寒稽古の際御掛りの方は殿下の御凍傷及御外傷を心配致しまして殿下に、何卒消毒された足袋を召されますやうにと、申し上げましたが、殿下は唯々頭を横に、御振りになるばかりであります。遂に中隊長から殿下に對し奉り

「殿下の御身體は御掛替のない、御國の御大切な御體でありまして、中隊長も誠に心痛いたします。何卒消毒足袋を御召になる様に、」と申上げた所、殿下は一段聲を上げまして

「中隊長殿!!! 士官學校の生徒が足袋を穿くならば、淳宮も穿きますが、淳宮一人は穿きません」

と仰せられたさうであります。



秩父宮殿下の剣道の英委

諸君は、殿下のこの御精神を何と聞き、何と見、何と感ぜられますか。斯くの如き精神を、學校教育に適用したる、體育運動の目的として、達成すべく努力したいと思ひます。愚かなる私の思ひますのに、竹の園生のやんごとなき御身の、殿下に於かせられては、御教育も御體育も、温室育的にましますとのみ、想像し參らせたるに、大木先生の御謹話によつて、己が愚蒙を啓かれて、恐懼してゐる次第であります。運動教育に對し、この精神の訓育に缺陷があるならば、如何に外面形式上の體育に努力するとも、教育に應用したる體育科の價値は空に歸するのであります。

第三章 東京商科大学の體育

第一節 「不生産的人物」

東京にお出かけの時機がありましたならば、是非東京商科大学の體育狀況を御視察願ひたい。恐らくは直轄學校中に於て、最も眞面目に、體操を勵行してゐる學校でありませう。この大學長は御承知の佐野善作博士であります。博士が今日の商科大学の體操を勵行するに至りし決意と、その内容とは、二つの方面があつたやうであります。其の一つは、近來同校學生の學力低下の原因が、學生の身體的基礎の薄弱によることに氣附かれたのであります。歐米諸國に於ける年々歳々の軍隊に關する身體検査の成績に看るに、小學校卒業生よりも中學、中學卒業生よりも大學の卒業生が、體格體力亦佳良にして、甲種合格者が頗る多くあります。然るに我國に於ては、全然之に相反して、學業課程の進展と、體格體力の向上とは、逆比の關係になつてゐます。程度高き學校の卒業生、體格體力不良にして、甲種合格者が激減するのであります。我國の大學卒業の成否は、一面肺結核なる難關を、突破するかせざるかに存するの慘狀であります。我二十一個師團の兵力も、肺結核其他の病兵のために、數個師團は全

く役立たぬ空の兵隊であるかも知れません。知らずその何れが、健全なる教育であるか、願ふに我國の教育には、非常なる欠陥があると、信ずるのであります。佐野學長が、この點に着眼せられたことが、體操獎勵の原因の一つであつたさうであります。其の二つの理由は、眞正なる運動教育、堅實なる運動教育によりまして、全人教育人間教育を施さうとする抱負であつたのであります。

佐野學長は、當時の戸山學校長林二輔大佐殿に、體操教官を御二話願ひ度いと申込まれました。戸山學校長は、佐野學長の體育に關する誠見と決心とに動かされまして、遂に林先生に兼務を命ずる事になりました。林先生は、御弟子の笛重五郎氏と角田末一氏、御二人の助教を従へまして、大正三年八月商科大学の門を潜つたので御座います。然るに硝子窓の中から首を出して、之を眺めて居ました、數名の學生が、異口同音に

「来た〜」

と罵つたさうであります。尙猛烈なる一人は

「不生産的人物が、とう〜やつて來やがった」

と罵倒したさうであります。

來やがつた、とは何の心を表はすものでありませう。云はゞ我々商科大學生は、今更小學時代にやつた、一二〇の體操等は、遣り度くない。貴様が來るについては、僕等は歓迎しないんだと云ふのでありませう。學生の頭は純である。併し乍ら又單であります。軍服姿の先生が、不生産的人物と見えただのであります。此時の先生が、私共でありますならば、其等の學生に向つて、黙れとか、何を云ふかと、生徒を叱咤するのであります。先生は十數歩、硝子窓下際まで歩まれ、舉手注目の敬禮を學生に送りまして

「僕は林であります。どうぞ宜敷」

と挨拶されました。深い考で言つてゐる學生でありませぬ。温かい血の流れてゐる學生ですから、直ぐ沈黙したさうであります。やがて三先生の赴任式がありましたが、この席に缺けた學生の數は少なくありませんでした。この式場に於て、學長は體操教育の事、全部を體操教師に任せる旨を言明されました。

體操授業の時間になりました。ところが六十名の學生中、整列してゐる學生は、僅かに二十六名しかありませんでした。私共なれば、忽ち、何故貴様達は出て來ないのかと、疍癘玉を破裂さすのであります。然るに先生には、怒りの色などは、全く見えない

のみか、其時の指導が誠に親切にして、且つ懇切を極めたさうであります。何となれば、其處には叱言を言ふべき學生が、一名も居らぬ事によく分つて居る先生であります。この見易い道理が、理知の上では分つても、感情の上で分らなくなる指導者も少くないのであります。そして、何故貴様達は出ないと叱言いふのでありますから、その叱言は生徒によく響かないのであります。然れどもこの尊い先生の心も、容易には學生の頭に感じませんでした。その第二回目の御授業の時には、其の出席者が更に激減して僅かに七名になつたさうであります。一クラス六十名の生徒が、七名に減じた、これが私共であれば、遂に辛抱の綱が切れて、授業をしないから歸れと、五十三名に對する不平不満を、七人の善良なる生徒に、投げ出すのであります。先生はこの七人の學生に、一人々々親切の手を入れて、理想的に個人指導をなさいまして、親切懇切の限りをつくされました。何となれば、其六十名の學生が、最初二十六名に減じ、遂に七名に減じたのであります。この場合、この最後まで踏み留つた學生は、實に精神的金鷄勳章に値する、尊敬すべき學生でございます。此の學生に對して、懇切の手を盡さなければ、體操教育の道が立たないのであります。

第二節 先生方の苦心

大正三年度の一年間、分けてその前半の間の御三人の先生方の苦心は、一通りではありませんでした。或時は謄寫板に摺つた檄文が飛ばされました。「我々は商人になるのだから、體操のやうなものはいらない」といふ意味のものでありました。或る雨の降る日に、黑板に體操教師排斥の激越な宣傳文が載せられました。この宣傳文の最後は、曹長を撃ての文句で、結ばれてありました。或る體操の時間に、先生が跳臺の跳方を圖解して、生徒に説明しました處、某生徒はその先生に、其の圖は平面圖ですか、断面圖ですかと、意地悪しき口調にて、質問したさうであります。臂立伏臥の運動を、させやうと思へば、掌が土で汚れるものですから、手を地面に附かぬ生徒もありました。又或る時は、體操教師攻撃の歌を作り、之を歌ひて同教官室の廊下前を、騒ぎ立てる一團もありました。校友會雜誌には、體操教師への不満不服を訴へてありました。角田氏は之に對して、「二つの忘れもの」と題して、現代學生氣質の、偏知的學的態度を戒しめ、德育及體育を忘れ勝ちである旨を以て、大に酬ひました。或日林先生が、或る一組の生徒の體操を授業して居る際、他の或る組の生徒は、その傍らに寝轉ろんで、晝食

をし、煙草を吸ひながら、彼是の駄辯を弄して、見てゐました。先生はその生徒等に、君達は、帝國劇場にいつたことがありますか、劇場ですら、煙草を吸ひ食物を頬張りながら、見て居らないのに、この有様は何うした事かと、窘なめられた事もありました。當時、體操の授業をする組は、八組ありまして、内水曜日に相當したクラスが、一番難物でありまして、角田笛兩氏は、水曜日の鬼門の日には、互に顔見合せて、とても駄目だと、溜息ついた事がありました。

努力は空しくありません。斯くするうちに、一つには先生方の親切な指導が、段々に生徒の頭にも響き、一つには體操の時間のあつた日は、下宿屋にて夜ノートの整理する時、大變頭工合がよろしい事、又一つにはこの三人の先生方は、當時商科大學より、報酬や俸給を頂いて、やつて居るのではなく、戸山學校より商科大學への、好意の兼務であつて、道のために努力して下されてゐる内情も、自然に分りまして、この年度の後半期には、餘程指導が樂になつて來ました。

近頃は教授會に於て、生徒の處罰を決せんとする時、生徒は、體操の先生に泣き附いて、教授會に謝して頂くやうになりました。教授會も體操教師側の言ふ事は、それに大底應ずるさうであります。變れば變るものであります。

大正三年度末の成績調査になりました。先生は一つの標準線を引かれました。即ち林の體操授業を、一時間でも受けた學生に對しては、敢て七十點以上、一時間も授業を受けなかつた二人の學生に對しては、氣の毒であるが零點を附せられた。何ぞこの年度末のレヴェルとして、最も適切でありませんか。何ぞ其の標準線が徹底的ではありませんか。

第三節 佐野學長の斷案

この事は教授會の問題となりました。少壯教授連はこの二人の學生は、他の課目の成績が中々優秀である。今彼等を落第生たらしむることは、誠に氣の毒である」と主張された方もありましたが、結局落第をさす事に、決定しました。この時の學長の御心を、推察致しますのに、

「あの林先生の體操の御授業を、一時間でも受けなれば、學生の倫理觀には缺陷がある。この缺陷ある倫理觀に反省を促すために、あの林先生の體操教育の窓から眺めた、零點なる落第點を與へる事は、至極結構の事である。抑も斯くの如き學生が、今日の心を以てしては、將來本大學を卒業して、會社の支配人になつても、銀行の重

役になつても、人間として成功すべきものではない。二人の學生に人間への反省を促すために、自分は原案に同意を表する」といふ御心であつた事と、御推察致します。

第四節 「疊の上で體操の點は附かぬ」

二人の學生は、擔任角田先生に謝罪すべく二回も訪問しましたが、同先生は、學校ならば御逢ひをするが、私宅では面會出来ない旨を諭しまして、二回ながら面談を謝絶されました。學生は三度訪問しました三度目には遂に先生も學生の情をくまれました、面會されました。二人の學生は、二階座敷に招じ入れられました。眼のあたりその不生産的人物でないことが分りまして、如何にしても謝罪の聲が行き詰つて、咽喉から出ません。

これは別の話になりますが、私は大正四年の秋、林先生を始めて訪問したことがあります。奥座敷に通されまして、早速先生にお目にかゝることが出来ました。其時私は、最も鄭重に最善を盡した、お辭儀をしました。頭を擡げて見ますと、先生のお頭は、まだ上つて居りません。もう一度やり直さうか知らんとも、思ひました、腋の下から、

冷い汗がたら／＼と肋骨を傳うて流れるのを感じました。こは私のお辭儀の速度が速かつたからではありません。この時の私の手附を見やうならば、外八字の何とも醜い形でありました。先生の御手はあの臂立伏臥運動の形式に則つて、内八字に着かれてゐました。抑も體操の運動形式なるものは、之を生徒の社會生活に運用利用せしめて、始めて意義もあり、權威も存するのであります。例へば臂立伏臥の手付にしても、小供等が、お叔父さんやお叔母さんにお辭儀する時の手付に關係あらしめなければ、即ち生徒の社會生活を、善導美化する上に、脈絡をとらなければ、何のための體操であるか、その結論が化けて仕舞うのであります。私のこの外八字の手付の敬禮態度は、汝一個の體操は、運動場だけの體操であつて、汝の社會生活と何等交渉のない影薄い體操である、といふ事を、私の姿の事實の上に、現はしてゐるのでありますから、貧弱と雖も専門體育指導者の一人として、世に立つてゐる自分としては、非常なる實教訓をこの席に學んだのであります。自分と雖も體育運動の社會化といふ事は、理論上には辨へてゐましたが、事實の上に辨へなんだ、愚を啓かれたのであります。自白す。私の過去十年の體操教師の生涯は、夢でありました。私はこの時から運動教育の社會化につきて、熱心に考へ、熱心に骨折るやうになつたのであります。この

時奥様は、貴重なお菓子を澤山、三寶に載せて下さいまして

「矢鳥先生。このお菓子は一昨日御用邸で、主人が頂いたものであります。一つ召し上つて下さいませ」

戴きたい心は、腹一杯であります。先程の失敗に懲りて、心に餘裕がありません。斯ういふ菓子を頂戴するには、一體どういふ案配に、私の兩手を出してよいか分りません。手さへ出さなければ、無難でありますから、遂に固く縮まつたまゝで、居ました。諸君よ、多少は世の中を知り且つ味はつて居る筈の私も、この場合手が出なかつたのであります。況んやこの動機とこの経過とを持つ、二人の青年は痛み入りまして、穴あらば這入り度い心地であつたらうと察します。しかし何としてもこの口を開いて、謝罪しなければならぬ。謝罪して點を頂けなければ、商科大學の先生方が滿場一致で落第させる旨を、固く諭されて來て居る。所謂背水の陣を布いて來てゐる、學生であります。謝罪の言を、發しないのは、苦しい。發するは猶更ら心苦しい。この場合、一人の學生から、相手の學生に對して懇請懇願した事でありませう。心は、僕には到底咽喉が詰つて、謝罪の言葉が絞り出せないから、君が勇氣を出してやつてくれ、の心であります。相手の學生も亦同じく心中祈つてゐた事ませう。同様の感とい

ふのは、正しく斯様な場合を指したものであります。君が言はないで何としよう。君こそ勇氣を出して謝つてくれ」といふ心であります。

茲に於て、その青年は萬事休す。鄭重に兩手をついて、實に申譯けがありません。全く先生といふものが判りませんでした。又體育の精神が判りませんでした。實に恥しい次第であります。明年からは魂を入れ換へて、人一倍勉強いたしますから、何卒今回だけは、お情によりまして、及第點を戴きたうございますと、涙ながらに歎願謝罪致しました。黙々として聽いて居られた角田先生は、この時たつた一言

「體操の點は、運動場では付きますが、壘の上では付きません」

この一言この一句は、私共の理想としてあこがれてゐる、運動教育の精神を物語つて餘りあるものであります。

この角田先生は、昨年二月湯原元一先生に、拔擢されました。東京高等學校の、體操科の主任を勤めて居られます。

第五節 人への體育の落第生

孔明が私の心には泣きつゝも道のためには愛巨馬謖が首を斬りしが如き心もて、角

田先生は遂に、二人の學生の乞を容れることができませんでした。二人の學生は、哀れ落第させられました。しかし先生の誠は遂に學生の心に通じました。この二人の學生は、その後一向角田先生を怨まなかつたのみならず、公私共始終先生につきまといつて、修養したといひます。

私は昨年一月十七日高等師範の可兒徳先生のお伴をして、商科大學を視察しました。聞く所によりますと、體操科のために落第した者が大正八年度に十人、九年度に六人あり、この十年度末には、九人位出来るかもしれないと、語られました。斯く多數の落第生を體操科によりて、作るといふことは、それが運動技術の上の、採點であつたならば、商科大學の首肯する所でありません。全く倫理教育、人間教育といふ琴線に觸れて居る、體操教育の落第點でありますから、學校が學生に落第を命ずる事も出来るのであります。この日の體操時間には、某先生は可兒先生に向つて、

「可兒先生、あの級の前列何番目に居る生徒は、私共が體操で、二度落第を命じた學生でありますから、どうぞそのおつもりで、篤と御視察を願ひたい。」

との事でありました。夫れですから、この大學には、個人的に言へば、體操で二度落第させられて居る、生徒が居るのであります。卒業後本務として、體操科の教育をなす

べき生徒を養成しつつある師範學校に於てすら、仲々に體操で落第をさせ兼ねてゐる氣分であります。この商科大學には、十人ばかりの體操の先生が居られます。中には立派な將校の方もありますが、曹長級の下士の方も居られます。殊に感心しましたのは、この下士の先生の體操時間に際しましても、生徒は全く將校の先生に對する態度と變りがありません。これは東京商科大學生の非常なる美點といふべきです。出席の點呼をされますと、片足を前に出して、休んで居た生徒も直ちに前足を後足にひきつけ、踵を揃へて、「ハイ」と返事をするのであります。

世間動もすれば、斯くの如き動作を見て、あの學校の體操は、軍隊式だなどと嘲ける者あるは、誠に遺憾であります。斯くの如きことが、軍隊で行はるゝと、行はれざるとは、自ら別個の問題であつて、私共の關する所でありません。その事自身が善いか悪いかを判斷し、善ければ教育上に之を採用するに、吝かならぬことを希望します。兎も角本商科大學生は、氣を付けの姿勢をとつてから返事をしてゐます。私はこの形に必ずしも感服する者でもありません。この眞面目な精神に敬服するのであります。

歐洲大戰亂中獨逸の將校は、盛んに變裝をいたしまして、英佛等に軍事探偵として、出かけたが、時々獨探なることを發見されました。如何なる點に於て看破されたかと申しますと、獨探は人との對話中、片足を後足に引きつけて、支持脚を變へる所作が習慣として、染み込んでゐたためださうであります。ために獨逸將校たることを見出され、斷頭臺上の露と消えたものが少くないとのことであります。實に獨逸人は、恐しい緻密なる頭腦を持つた、徹底的の國民であります。一つの小さい仕事、一つの細かい動作をも、決して忽にするといふことがありません。軍事に於て然り、工業に於て然り、學事に於て然り、凡ゆるものに對して、眞摯なる態度を失はぬ國民であります。彼等の日常生活に於て、前なる片足を後なる片足に、引き寄せる案配によつて、獨逸軍人なりと看破され、あはれ敵國の露と消えたこの軍人は、祖國のためにどれ位甚大なる功績を現はしたか、計り知る可らざるものがあります。

第六節 某中學校の教練

私は岡山師範學校に在勤中、同縣に於て亂暴學校として有名なりし、私立某中學校の體操教師を兼務したことがあります。當時この學校は、山陰山陽四國九州各方面の

放校生、退校生等、不良生の集りを以て、有名な中學でありました。教員を川の中に叩き込む位は、朝飯前の仕事であります。試験の際少し難しい問題でも出せば、皆白紙を出すといふ、逆も手に了へない生徒が多く、中には、常に白鞘の短刀を懐中に忍ばしをる、物騒千萬なものもありました。この學校にも非常に良い生徒もあります。又一般的にも、仲々よい所のあることは、言ふ迄もありません。私の参ります少し前に、或る兵式の教師が、この學校に俸職しまして、先づ四年生の兵式教練に取かかり、出席點呼をしますと、その中に、實に失禮な返答をした生徒がありましたので、その教師は、君は何故、左様な失禮な返事をするかと詰りました所、その學生は、何が悪いと、短刀を握り肩聲やかして、教師に迫つて來たさうであります。教師は喫驚して、思はず一歩後へ退りました。之がその教師の抑の失敗でありました。遂に生徒に馬鹿にされてしまひまして、その後いくら努力して見ましても、一向教育が徹底しませぬ。穢い言葉で云へば、生徒に舐められて仕舞つたのであります。この先生も間もなく匙を投げて、同校を引揚げました。其後任として暫らく選ばれたのが私でございます。當時私は二十三歳の青年でありました。あの坊ちやん教諭ならば、案外生徒の遊び相手にはよからうといふ、軽い意味のお眼鏡でありましたらう。坊ちやん教諭屢々

某中學校長から、兼務の交渉を受けましたけれども、そんな學校に行く事は、誰しも嫌でありますから、そこで私も多少考へまして、御断り致したのであります。其後縣當局の方や、師範學校長と、どういふ交渉が纏りましたか、事の結局、何時の間にか私の手には、某中學兼務の辭令を握らせられたのであります。當時私はつくづく思ひました、校長先生は、何と罪深いことをしてくれたと。併しもう及びません。私は覺悟して、始めの日の始めの時間に、同校五年生徒の、兵式教練を指揮することになりました。五年級とあつては、甚だ手應へがあります。まかり違へば袋叩きにされる位は、覺悟の上で、運動場に出ました。最早觀念の臍を決めて、先づ準備運動を二つ三つ課して見ました所、甚だ成績がよい。「捧げ銃」換へ銃をやつて見ますと、之も甚だ無事であります。案外之はよいぞと喜び、本運動に取掛りまして、中隊縱隊の編成を作りまして、「前へ進め」の號令をかけました。然るところ、こゝに生徒同志の打合せが調つてゐまして、銃を恰かも天秤棒を擔いだ如くに擔いで、ヌラリクラリと歩み始めました。御承知の通り、銃は四十五度の角度に、正中線に添ふて擔げば、威嚴味もありますけれども、天秤棒式では、とても見られた態ではありません。次で私は、廻れ右前へ進めと號令をかけたが、彼等は知らぬ顔をして廻つてくれません。然らば彼等はあの石垣

を攀ち上つて、山の方に逃げやうと豫ての作戦があるか？と、呆れて成行を眺めて居ますと、夫程でもなく、石垣に當りますと、自然的に廻つて此方へ歩んで來ました。此方には校門があります。彼等はこの校門から、正々堂々と逃げ出すつもりであらうか？と、私はまたたきその成行に任かせて、眺めて居りますと、それ程深い謀みもありませんで、又再び自然的に廻れ右をして、私の方へ歩んで來ました。しかし斯の如きことを、何時まで繰り返しても際限がない、且つ愚であります。時を見計ひまして、私はサツサと教員室に引揚げてしまひました。私が教員室に達した時、彼等は三度目の廻れ右をやつて、肝心の虐め相手が、居ない事に氣が附いて、盛んにがやがと怒鳴つてゐましたが、それなりその時間は、お流れになつた事があります。

現陸相山梨半造閣下が、數年前の文部省教育會議の席へ、教育總監部の本部長として臨まれました、我國中等學校に於ける兵式教練に關する、希望を述べられました。其の趣旨の大體は、現在各中等學校に於ける兵式教練なるものは、その精神に於て、大いに缺如せるものがある。例へば各學校に拂下げられたる銃には、畏れ多くも御紋章が附いて居るが、其の指導者及生徒は、之を心得て居るか如何に。又彼の銃は、日清日露の兩役に、わが先輩が祖國のために、血に染めた銃であるが、指導者並びに生徒は、之を心得て居るか如何に。この二つの點に於て、缺陷があるならば、中等學校に於ける兵式教練は、精神訓育上、極言すれば實に百害あつて一益なしといふも、過言であるまい云々と、警告を與へられた事があります。

山梨閣下の訓告。某中等學校の兵式教練。今日の東京商科大学の體操。夫れと之れを思ひ比べまして、あの商業研究の商科大學生の、あの眞面目な努力には、たゞく感服の外はないのであります。

第七節 「結果よりも経過を見て下さい」

大正十一年三月、東京商科大学を首席で卒業された方は、在學六年間首席で通され、且つ在學中體操が百點と云ふ、唯一の方でありました。この方は横濱一中の卒業生で、六年間横濱から通學してゐた、高瀬胖君であります。同君が某君への語り草のその緒論に於て、某大學と商大とのポートルの沿革歴史を説き、其の本論に於て、當日の艇上人ありて人なきが如く、藍青の水とオールの尖に亂れる水沫と、相移り相影じ、波を蹴立て、進む貌の、さすがに見る人をして恍惚として、自らを忘れしむる波上の美や、振るれば断たんずの鐵腕と鐵腕との、舷々相摩するの勇や、隅田の兩岸巨萬の觀衆

の壯んな姿などを語り、偕てその結論に於て、

「斯くして吾々商大學生は、見事に大捷した。勝つた事必ずしも誇りでもない。たゞ我々は朝から夕方まで、學生らしい眞摯の態度で終始した、その経過に就て、誇りを持つものである」

と物語られたさうであります。之に依つて見ると、如何に商大學生が、體育精神を味はつてゐるかが伺はれます。此大學卒業生は、一年志願兵の成績も、非常に良いさうであります。大正九年十二月除隊された、岩崎男の二男の方も、隊の成績が首席であつたのであります。

第四章 熱い涙

第一節 二人の校長

大正七年二月四日、私の郷里群馬縣倉賀郡小學校の、體育研究會へ、林先生が御出で下さることとなりました。私は先生を停車場にお迎へいたしました。下車された先生は

「本日は研究會のあとで、あなたのお父さんにお目にかかりたい。この鞆は先づお

宅へ届けて置いて下さう。」

とのお話してありました。當時私の父は、病氣で永らく床中にあることを申し上げますと、

「折角東京から希望を持つて來たものだから、一寸お目にかかり度い。」

との事でありました。私はこの大鞆を、自宅に届けまして、且つ用意萬端手落ちなく、準備いたすやう、家人に申し傳へておきました。研究會も済みまして、御案内をと申上げました處、先生は

「玉村、倉賀野の校長先生も、御一緒に御同行が願ひたい。」

との御注文で御座いました。この御注文は、私の胸に思ひ當ることがありました。先生は前の年七月二十三日、午前倉賀野、午後玉村に於ける、體育研究會に臨まれました。此日先生は、午後七時半に、外國留學に旅立つ友を、東京驛に見送るべき御豫定がありました。それで倉賀野驛を出發する、午後四時の時間を、間違はない様にとの御注意でありました。然るに玉村に於ける指導講演中、時間が切迫致しましたため、屢々演壇上の先生に、御注意申上げましたが、話の連絡上中々降壇されませぬ。漸くにして講演を終られた時は、頗る時間切迫でありましたから、車夫に最大馬力を加へる

やう、旨を含めまして、倉賀野驛へと出立しました。驛近くになりまして、踏切に通る掛りました時、貨車が通過し、踏切が遮断されました。私共腕車の一行は、暫し停車してゐました。すると後方から、息をあへぎく、跳んで来た方があります。後へ振り向きますと、夫れはシャツ一枚で、汗を浴びて、苦しうに駆けて参りました。玉村の校長先生でありました。私は、先刻お俵にお召ではありませんかとお質ねしますと、あの車夫は體に故障があつて、よく走れなかつたから、降りて跳んで来ました。何とか林先生をお見送り致し度いと申されました。一里あまりの道を土用の炎天下に、先生を御見送りしたために、懸命に駆けられたのであります。今の世動もすれば、言ひ譯の手紙や言ひ譯の文句の上手者が増して来る世に、こゝには禮のために、最善の努力をしてゐる人が、あるのであります。先頭にあつた林先生は、この問答を耳にせられ、大變感動せられたのであります。少時にして踏切りは上り、倉賀野小學校の前に差し掛りますと、其處には倉賀野町の校長先生が、双肌を脱いで、先生の御通過を待ち構へて居まして、先生の腕車の後から、グン／＼押し立て、遂々停車場まで押し抜きました。林先生はこれ等の必死の努力で、漸くにして汽車に間に合ひました。先生の眼底には時しれぬ露が、光つて見えました。

第二節 葱と天盃の御酒

私も習慣に従つて年末になると、東京に居られる先生や、先輩を訪問し、御禮を申し上げるのを年中行事の一としてゐます。大正六年十二月の末、私はお土産を用意して、あと二三日で東京に出かける積りで居りますと、父は、本年は葱の出来榮へが殊の外よろしい。本年は葱を先生方に、贈つたらどうかとの話でありました。この時私の心が間違つてゐまして、葱を東京の先生方へ持参する事が、どうも氣が向かなかつたもので、すから、不賛成の旨を答へました。しますと父の面差には、不満の色があり／＼と浮びました。この瞬間、自分は何といふ情けない人間だらうと、反省したのであります。「お父さん葱誠に結構、葱猶更ら結構です。どうかお手数でも、炭俵か何かに詰めて、先生方へ鐵道便で送つて戴き度い。」

親は有難いものであります。半日物置部屋にて、吾子の恩師のために、且は吾子のために、心盡の荷造りして、發送して呉れたのであります。斯くして、東京の林先生のお宅に、御挨拶に上りますと、先生の御母さんから、くれ／＼も繰返し、父の手作の葱に御禮を云つて下さいました。尙此際先生は、二人の校長の事に、話を向けられ、故乃木將

軍の事績を引例されまして、明治四十一年の秋乃木閣下が、曾て奈良地方の特別大演習を終りまして、陛下の還幸を某驛にお見送り申上げたことがありました。其時將軍は、愛馬に跨がり鞭を加へて疾風の如く某驛と某驛との間を、汽車とマラソン競走を致しまして、某驛に駆けつけました。馬は數日に亘る演習のため、已に疲勞を極めてゐた矢先き、鞭打ぬいて駆けさせられたものですから、驛に着くや、疲勞の姿を極度に現はしました。將軍は無事に御任務を全うせられる事が出来ました。ブラットホームの外に出られまして、汗馬の頬を撫し首を撫し、馬の勞苦に感謝して一滴の熱涙を注がれた事があります。あの時、玉村の校長先生が、一里の途を遠しとせず、私のために炎天下を、お馳せ下された事、あの倉賀野の校長先生が、双肌脱いで、腕車の後を押して下さったこと、私如き者に、夫れ程に力をつくして下された御芳志には、彼是れ思ひ合して何ともお禮の申し様がないと、懇篤なるお話がありました。更に先生は語を更めまして、

「凡そ體育運動は、人間理想の遂行でなければならぬ。其の結果は零になるかもしれないが、その成功不成功の結果は問ふ所でない。或る理想のもとに、努力する経過が、人への體育の理想の遂行である。旗取りをする、中途迄駈けて、駄目と思へ

ば、止めて仕舞うやうで、何にもならない。良い結果を把んでも把まんでも、努力の経過に満足する行爲でなければならぬ。玉村の校長先生が、駈けつたのでは、その結果に於て、倉賀野驛に私を送つて下さる事が出来ない事に終るかもしれないが、初一念の遂行その物に價値があります感謝の値があります。」

今先生が、倉賀野の校長先生、玉村の校長先生を同伴せよと仰つしやるのは、即ちこのお禮のために外ならないと思ひあたつたのであります。

自宅に先生始め、皆さんを御案内致しました。父も床より起き出でて、先生を御迎へいたしました。奥の間に、一同が着座しまして、夫々一應の挨拶が済みますと、先生は床の間に向つて、トランクを開けられて、何事かをなされてゐます。此方に向はれた時は、三寶の上に三組の銀盃が、積み重ねられてあるのが、眼につきました。先生は、徐々に私の父の前に進み

「お父さん、昨年末には、お手作の葱を澤山頂きまして、誠にありがたう御座いました。私の喜は勿論であります。私の母が非常に悦びました。お蔭様で母親を喜ばす事の出来ました事は、何とも御禮の言葉もありません。この銀盃は最近陛下から戴きましたものであります。私の身の現状は、手作の葱を、お父さんに御あげする

事の出来ない境遇でありますから、この御目出度い天盃の御酒を、一献差上げまして、御芳志に酬ひたいと思ひます」

父は有難涙に咽びました。次には母が戴きました。次で玉村の校長先生の前に参られまして

「感ずる所がございました、お芽出度いお酒を、校長先生に差上げたい」

と申されました。何を感ずるのか、校長先生には少しも判りませんが、有難く頂戴しました。次で倉賀野の校長にも、同様の意味を述べられて、御酒をあげられました。

最後に先生は、私の前に嚴重に端座されまして、歐米に於ける體操發達史概要の御講演が、聲低く力強く、説き始められました。斯る時、斯る場所に、先生の御講演が始まらうとは、實に意外でありました。

私は無論、一座靜肅に謹んでお聴きしました。このお話の進むにつれて、このお話の目指す處が、那邊にあるか、私の胸には解く事が出来まして、先生の御厚志に對して、頭を掻くことが出来ませんでした。

第三節 愛國的熱情の體操

當時私は群馬縣體育視學として、同縣の體育發達のために、微力を致して居りましたが、その指導法宜しきを得なかつたために、教員側から新聞に投書がありまして、盛んに攻撃を受けてをりました。一度投書の火蓋が切られるや、續々と私に反對の心及反感を抱いてゐる人々から、投書が出まして、一時四面楚歌の中に立つたのであります。當時私はその攻撃の、何たるかを、諒解するに苦しみましたのみならず、寧ろ攻撃する人の心事の、不都合を慨嘆してゐました。然し今にして思へば、私の修養の不足から生ずる、指導法全く宜しきを得なかつた事と、御恥かしく存するのであります。即ち林先生には眼から這入りましたか、耳から這入りましたか、兎に角先生に此の事が知れたと見えまして、今日の此の場の御話は、私の両親がさぞ想ひ惱んでゐるであらうと、お察し下されて、語り出されたものであります。

リングは、一七七六年十一月十五日瑞典スマーランドのリユンガの一寺院に、呱呱の聲を挙げました。神學者として且つスカンヂナビヤの古代研究及歴史家として、詩人として有名な人でありました。ピーター第一世の侵略主義に際會した、瑞典の危急存亡の秋に處し、體操を以て百萬の貔貅を養ひ、干戈を交へしめ、敵の進軍を防止せんとし、嚴然として襟を正しうして立つたのであります。之を外にして

は外敵に對抗し、之を内にしては自然と調和とを理想として、自然なる人類教化、調和ある人間教育の爲體育研究に、畢世の力を注ぎ、前人未踏の一新面を啓き、獨特の瑞典式體操を建設しました。リングは一八〇〇年より一八一二年に至る間、主としてルンドを中心として體育研究を遂げ、一八〇五年以來は、就中生理解剖及自然



。ダンリ祖始の操體典瑞

科學の攻究に没頭し、加ふるに從來の哲學及神學の研鑽を基礎として、益々研究の歩を進め、遂に一八一二年、時の政府に體育獎勵の事を嘆願しましたが、奇妙冷淡なる返答を以て酬ひられませんでした。彼は彼の詩的材能、温情、快活、無邪氣なる「我れは一生を通じて小供たらんと欲す」と洩らし、愛の力を以て世を導きました。が、一年経ち二年経ち何年経つても、尙ほ且つ政府及國家の眼と耳を引き寄せる力とはなりません。彼の意志力及勉勵は、粘強的努力となり、不遇の半生涯三十年間を、奮闘した甲斐があり、一八三四年遂に政府をして體育を承認せしめました。

時まさに齡六十歳に達するに及びて、曉の星の如く、群星を壓し、昇天の勢を以て瑞典全國を風靡し、蓋世の勢を以て、軍隊あらゆる學校、家庭にまで、社會的運動、國家的運動として、勵行されるやうになりました。時恰も燈火將に消えんとする最後の華炎に似て、彼の先覺者としての最後の花は短かく、得意時代僅か五年、晩年過度



。ンヤ祖始の操體逸獨

の出精のために病を得て、一八三九年五月三日遂に不歸の客となりました。又ヤーンは一七七八年八月十一日獨逸のラントといふ僻邑の一寺院に呱呱の聲をあげました。一八〇六年のナポレオンの襲來に際會するや、燃ゆるが如き滿腔の愛國的熱情、奮勃として禁じ難く、獨逸國粹及獨逸共同の爲め、獨逸式體操の建設に奮起しました。彼が「獨逸國の共同は、僕の幼時の夢想に過ぎなかつたが、僕が青年壯年の時を閲する間に、漸次曙光となり、赫々たる日光となりて、僕に永勃の安寧を暗示して居る」といふ常套語は、實に彼の麗はしき感情、祖國に對する確乎たる愛國心を吐露してゐます。一八一一年の春、伯林の南にあ

たり、森林と丘陵とに富み、地勢甚だ運動に適した、ハイゼンハイデの森の中に、獨逸式體操を創設し、兒童及青年の間に、勇敢の氣象を養成し、以て獨逸の耻辱を雪ぎ、祖國をして他國の羈絆より脱せしめん事に努めました。が、事志に添はず、一八一九年六月十二日夜、彼は拘留され、初めシュパンダウに送られ、次でキュストリンに送致せられ、罪なくして囹圄に呻吟する不運に遭遇しました。幾何ならずして彼は青天白日の身となりまして、ウイヘルム第四世によつて、警察の監視を解かれ、また鐵十字章を授けられました。が、爾來快々として楽しまなかつたのであります。曰く「是れ體操そのものゝ、惡しきにあらず、自己の人格の然らしむる處なり」として、爾來體操界を隠退しました。この閑居の間、俄然彼は火災の難に遭遇し、その財産作品、草稿等悉く烏有に歸しました。彼の眞の活動期間は、僅か八年に過ぎなかつたのであります。一八四四年彼は「體操はさゝやかなる泉より湧き出で、今や心地よげなる流となつて、獨逸國の郡より郡へ、村より村へと浪打つてをる。行く末は大海となり、大洋となりて、滔天の濤を揚げ、神聖なる母國の境界を護るべし」と、心火炎々たる熱舌を吐きました。一八四九年以來は議員として議會に臨み、一八五二年十月五日遂にフライブルヒで不歸の客となつたのであります。瑞典式體操の

開祖リングは、智の人にして沈思默考に適し、獨逸式體操の開祖ヤーンは、勇の人に於て堅忍持久に富みましたが、然も二人の生涯は、甚だ酷似する處が多い。この二人は殆んど時を同うして寺に生れ、同じく幼時を寺に送りて神學を修め、青年時代に共に漂泊生活を送り、リングは外國の大學を遍歴し、ヤーンは大學より大學に移りて獨逸國內を遍歴し、二人共に歴史に詳しく、共に國民教育家であり、共に祖國を愛し、青年を愛し、青年の生命を支配しました。殊に天雲暗膽として故國の天を掩ふ時、祖國のために祖國を救はんとする、有爲健全屈強なる青年を養成せんとして、愛國的體育を建設した。立脚點に於て、その究極の目的に於て、全く符節を合する如く一致してゐます。然も當時のこの二人には、四面楚歌の逆境の間に信仰と愛と希望との三つの炎が、瞬時も念頭を去りませんでした。神焉んぞ我を捨て給はんや道を捨て給はんやとは、二人の箴言でありました。

リング及ヤーンの信仰、リング及ヤーンの愛、リング及ヤーンの希望を以てして、遂に不遇に泣いたのであります。あなたの如き信仰に於て愛に於て希望に於て、未だ大に足らざる者が、世のお叱言お叱りを受ける如きは、寧ろ當然であります。今後益々自重自愛して、あなたはあなたの良心の命ずる所に従つて、斷々乎として、

道のために慕進して戴きたい。私は、力薄いものであるけれども、陰ながらあなたの仕事を、極力援助するに吝ならざるものであります。斯くの如くにして、私に對しては十分の反省を促し、更により強き意味を以て、子の進みつゝある途を、私の両親に教へ、且つこの思ひ惱める昨今の心情を、慰さめて下さつたのであります。

第五章 スタツグ教授

スポーツマン・シツプは、時代々々の運動道德の上に顯れて來たものであります。建國以來我國の武士道訓練は、國家社會の中堅たるべき、士人教育の目標として尊重せられ、延いて今尙一般社會の道德意識を、緊肅ならしむる上に、有効なる基礎を有してゐる。この精神は、武道によりてその實行を確實にしたものであつて、従つてその發達は、武道に負ふ所が極めて多い。瑞典の國民性は、ビーター第一世の露國の侵略主義に對抗して、祖國を救はんとして生れた、瑞體操によつて、培養された事が、少くなかつたのであります。普佛戰後敗慘の悲運に、獨逸國民の熱涙は、凝つて、フィヒテの國民的大演説となり、ヤーンの愛國的獨逸體操となつて、現はれました。ヤーンは獨

逸體操の振興によつて、戰敗の屈辱より祖國の運命を、泰山の安きにおかんとしたものであります。又大英國の國民性は、運動道德の練磨によつて培はれました。即ち人格の陶冶、國民性の發揚等が、體育の目指す處でありました。英國のゼントルマンは、グラウンドに於て養はれる。グラウンドは、彼等最上のゼントルマンの訓育教室であります。

イートン、ハローの運動場といへば、私共は直覺的に運動道德の精神、品性修養の體育運動を以て連想するのであります。彼のウォーテルローの戰に於て、英傑ナポレオンを破り、英國に引き揚げたウエリントン將軍は、問もなく自己が青年時代に教育を受けた、イートン中學校を訪問して、戰勝の感謝をイートン運動場に捧げたのであります。

「この度の戰に於てナポレオンを打ち破つたのは、實にこのイートン運動場である。想へば吾等の若い時、この運動場に於て、懇切にして嚴格なる運動教育を受けた賜物によつて、吾輩は鐵の如く堅い身體に鍛へあげられた。御蔭で吾輩は石のやうに固い精神に鍊りあげられた。この運動教育に培はれた靈と肉とによつて、ナポレオンを打ち破る事が出來たのである。」

とて、後輩青年のために、運動道德、運動訓育の心を諭し誘掖指導したのであります。米國市俄古大學の體育の先生に、スタッグといふ有名な教授があります。先生はあつ年、市俄古大學生を連れて、或大學にフットボールの試合に出かけました。キャプテンページは、一勝一敗の白熱戦を、熱心に眺めて居たが、試合の進行するにつれてシカゴ軍振はず、ページの顔色は曇つて來ました。その前半の試合は、遂に零敗でありました。然るに中途にして、審判官は誤りて、市俄古大學に一點を與へました。之を見たスタッグ教授は椅子から腰を上げ、審判官に抗議を申込まんとしたのを見た、キャプテンページ氏は先生に、先生市俄古方は前半に於て零敗であります。今必死の場合であります。こゝで假りにも一點を入れて置けば、零敗の慘を免れ、且つ後半の類勢挽回の動機ともなるのでありませう。どうか先生我々共の胸中を察して下さいと、百方希うたのでありますが、スタッグ教授は斷々乎としてきき入れず、審判官に抗議を申し込み、今のは斯く／＼の事情にて確かに審判の誤りである。この一點は確かにお返しすると申込みました。審判官もこの言を容れました。此日遂に市俄古軍は零敗に終りました。何といふ潔い指導者でありませうか。このやうな場合に遭遇して、情義を没却して、正義を主張し得る人が、何人あるであります。

せうか。同じ抗議を申込むにも、私共の抗議とは、その内容が全然違ひます。我國の今日の如く、審判者に彼是つまらぬ事に難癖をつけるのは、甚だよくない事でありませう。審判者として誤りのある事は免れない。其の點に氣附かずして、苦々しき沙汰を惹起するは、誠に困つたものであります。審判者に公平無私の心さへあれば、萬一の誤りは寛恕すべきであります。當時同大學生の反感は、著しく、スタッグ教授は、冷血動物である。あんな血も涙もない先生に我々は今後體育教授を受くることを止めようとして、反對したけれども、スタッグ教授の人格は、遂に學生をして畏敬せしめずには置かない。今日では卒業生及在學生の醜金によりて、有名なるスタッグフィールドが出来た位であります。運動季節になると、シカゴ大學の運動場には次のやうな掲示が、スタッグ教授によりて張り出されます。

Good Training.

Good training consists in regularity of living habits

Eating.

Eat slowly, and chew thoroughly.

Avoid foods which you know don't agree with you.

Avoid foods which take a long time to digest.

Avoid foods which are fried in grease.

Avoid sudden foods.

Avoid especially rich foods and pastry.
Avoid coffee and other stimulants.

Sleeping.

Set a regular hour for retiring.

Each man should have from eight to nine and a half hours of sleep according to his nature and type of work.

Being "fit" turns on perfect regulation on one's living.

Irregularity in sleeping seriously damages setting into perfect physical condition, and draws on the reserve nervous power of the individual.

You can not keep physically fit by staying up late one night, and by trying to make sleep the next day and night.

Cultivate machin-like regularity in all your habits of living.

Tohacco, Narcotics and Lipuids.

out them out absolutely.

A. A. Stagg.

譯文

善き訓練

一、善き訓練は、規則正しい生活の習慣に在る。

食事

一、徐かに飲食し、完全に咀嚼せよ。

一、自身に明かに不適當である食物を避けよ。

一、消化に長時間を要する食物を避けよ。

一、油で揚げた食物を避けよ。

一、水氣の多い食物を避けよ。

一、特に美味なる食物及軟かきに過ぐる食物を避けよ。

一、珈琲其他の刺激物を避けよ。

睡眠

一、就眠の時刻を確定せよ。

一、各自その性來及勞役の如何に準じて、八時間乃至九時間半の睡眠を攝れ。

一、健康は各自の完全なる規則的生活より來る。

一、不規則なる睡眠は、完全なる健康状態を阻むこと甚しい。而も尙ほ各自の精力に支障を來すものである。

一、夜深更まで就眠しなければ、翌日晝夜を通じて眠るとも、既失の健康を回復し得べきものでない。

一、各自の生活は、須らく機械の如く規則的なる様、涵養せよ。

一、絶対に煙草、麻醉劑及酒を斷て。

スタツダ

歐米諸國に於ては、體育の指導者から「去れ」と宣告されたならば、同時に教會からも破門されます。體育指導者の權威は、斯うでなくてはなりません。

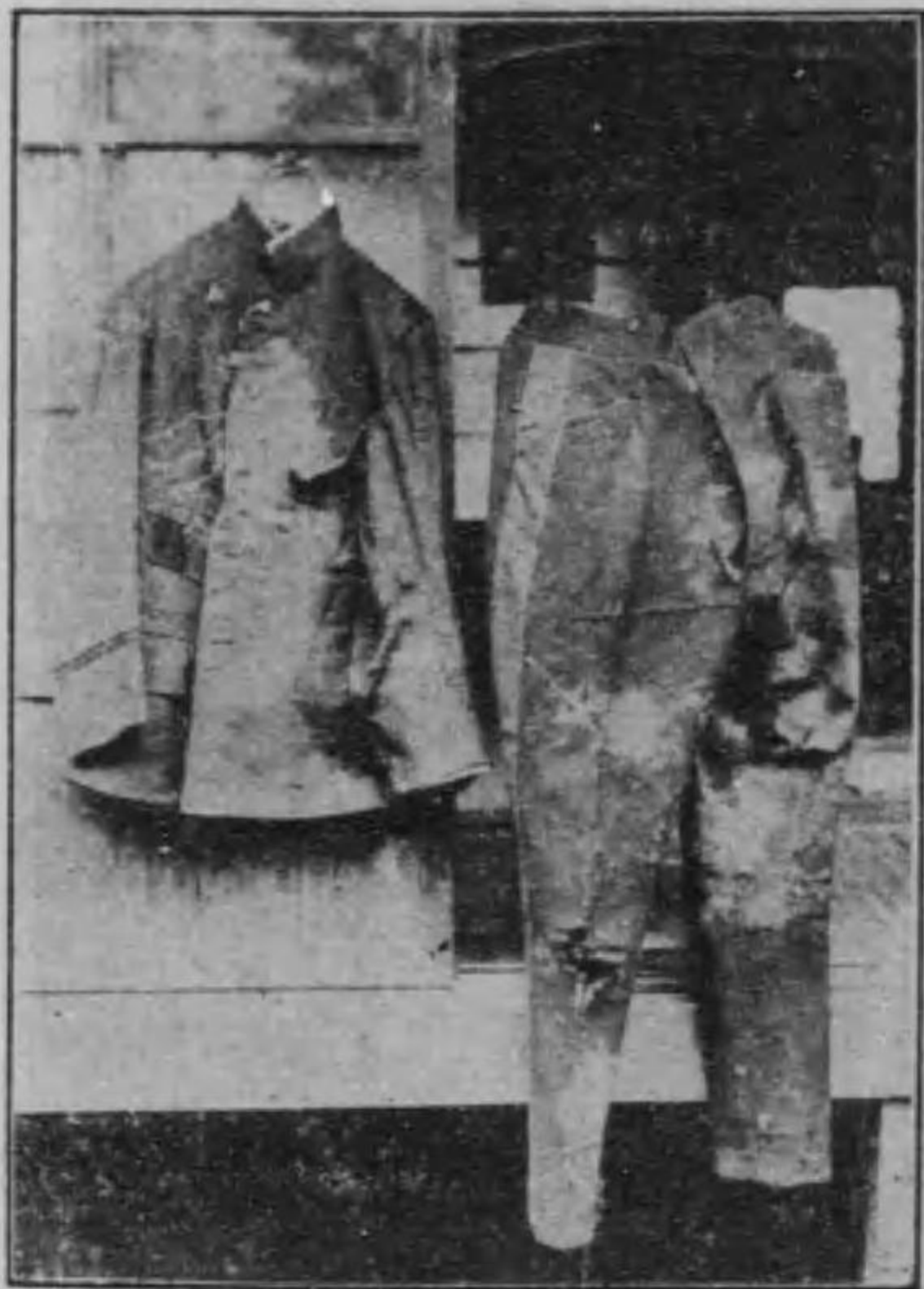
第六章 乃木將軍の體育觀

第一節 片臂なき體育指導者

その形式に於て、その精神に於て、最も尊敬すべき、我國唯一の片臂なき不具の、體操の先生があります。學習院の體操科主任教授陸軍歩兵中尉馬場徹先生であります。この方は仙臺市の生れでありまして、明治三十四年十一月士官學校を卒業せられ、任官の上北海道旭川の歩兵第二十八聯隊に赴任せられました。日露戦役に出征しました。乃木閣下を司令官として戴き、第七師團所屬で師團長は大迫尙敏閣下で御座いました。三十七年十一月に、大阪港を出帆して、十一月二十六日の旅順第四回總攻撃に参加しました。十一月三十日、旅順要塞二〇三高地の戦闘に従事中、第六中隊第一小隊長として、二〇三高地西南角の塹壕に、午後九時夜襲を敢行しました。接戦となつて、敵味方互に手擲爆彈の擲げ合ひになりました。

山なす屍、川成す血潮、阿鼻叫喚、酷烈酸鼻の慘狀の間に、我が報國の事實にこの一戦に在り、旅順の死命を制するも亦この一夜に在る。この初一念に、夜色凄然たる間を、手擲爆彈戦が開かれました。爆彈は驟雨の如く紛糾し、亂麻の如き混亂となりました。敵の散兵濠も味方の散兵濠も、乍ち火事場の如く、板が飛ぶ、土囊が飛ぶ、頭が飛ぶ、足が振切れる、火陷は蒙々上る、赤き火光は互の顔を輝して物凄く、戦線の酸鼻名狀しがたくなり、ました途端、敵から投げたダイナマイトは、馬場中尉の足許に落ちました。併

し夫れは、幸に爆發しなかつた。「鬼中尉の渾名をとつた勇猛なる馬場中尉は、之を拾ひ取り、敵陣目蒐けて投げ返さんとした瞬間、時やおそし、それが爆發しまして、爆音と共に左前膊全部をぶつとり、撈ぎ取られたのであります。



明治三十七年十二月一日夜、二〇三高地に於て奮戦し、戦死を内地に傳へられた馬場中尉の軍服。

この戦に、村上隊の馬場中尉は、大小十二創を被り、顔面四肢鮮血に塗れて、宛然夜叉の如く、其の従卒高杉一等卒は、七ヶ所の重傷を受けて、是亦全身血潮に染むの慘狀でありました。中尉の拒むを、従卒は無理に背負うて、漸く山腹に到りしとき、中尉は従卒の重傷を

見て大に驚き、サア今度は己が番だと、辭退する従卒を強いて我が肩に掛け、山麓に下りました。聞く者主従の情誼に感じて、涙を流さざるは無かつたのであります。當時の戦時書報は、従卒を背負ひて下山しつゝある中尉の姿を載せてゐます。又現今一二の修身教科書中に、同情の題下に、馬場中尉を引例してあります事も、御承の知

次第であります。

乃木閣下は、三十七年五月二十六日、南山役に於て長男勝典氏を失ひ、次いで同年十一月三十日二〇三高地に於て、次男保典氏を失はれたのでありまして、馬場中尉がこの大負傷を二〇三高地に受けられたのは、保典氏戦死と同日であります。



明治三十九年、皇
后陛下よ
り義手を
拜受せ
し、馬場
轍先生。

孤獨な家庭、淡枯な生活に、榮えあらしむるための、御拔擢でありはせぬかとも恐察致されます。學習院長に任せられました閣下は、先づ同院の職員組織改革の事に、御着手になりました。就中體育教師の選任に一方ならず配慮されました。當時北海道

旭川で静養中の馬場中尉を、同年四月東京にお呼び寄せになりました。中尉は何事であらうと、取敢へず上京して、御屋敷に參上しますと、閣下は

「此度自分は學習院長を拜命した。就ては君に、本院體操科の主任教授になつて頂

きたら



大年八年
八月、支
那旅行の
際、二〇
三高地の
負傷され
し地點に
於て、授
影されし
馬場轍先
生。

うかと思ひ迷つて容易に御返答も出来ませんでした。漸くにして

「私は御覽の通りの不具者でありますがこの姿で體育の指導者が勤まりませうかと恐るゝ閣下に向つて言上致しました。

乃木閣下はやゝ御聲を高らめられました。

「お前の片臂の無いその姿、お前の片輪のその姿こそ、何と良いだらう!!!」
やゝあつて更らに

「お前の左臂のない姿で、満足な體操の授業、教練の授業の出来ない事は、百も承知の上である。唯だお前が、お國のために奮闘した、紀念のその姿を、朝な夕な皇太子殿下を始め奉り、學習院の公達に見せて呉れるその事が、眞に體操教育ではないか」
あの旅順の戦に「鬼中尉」と歌はれた、剛膽不敵の馬場中尉も、この有難い言葉に泣きくづれました。こゝに中尉は、五月陸軍を退職し、六月學習院の現職に就かれ、今尙ほ身を捧げて居られます。

學校長としての乃木閣下が、職員組織に手をつけられ、就中體操教師採用の事に及びまして、この不具の體操教師を、主任教授とした事は、乃木大將の體育に關する御着眼が、技工や技術ではなく、體操教育、運動教育であつたことを、明白に物語るものであらうと思ひます。明治四十三年十二月一日は馬場中尉が二百三高地に於て、左臂を損ぎ取られました、七周年の朝であります。乃木閣下はこの日早朝御下賜の雉三羽に、御下賜の趣を認め、待従よりの書翰とを包んだ風呂敷包を御持參で、馬場先生の室を訪問されました。

「今日といふ今日こそ、お前には寔に思出深い日であらう。この品は昨夜陛下より御下賜せられた御料の雉である。一つは君がとり他は外の教員に頒けてやりなさい。又これも一緒にとつて置け」



乃木閣下より馬場先生に與へられた半紙の歌

と仰せられて半紙書きの詠歌を添へて下された。

忘るなよ秋の紅葉に春の花に
血潮踏みつゝ進みし時を

と半紙に書いてあります。この心は春が来れば花が咲く、秋が来れば木の葉も彩る春秋幾年、お互に血潮踏みつゝ、陛下の御ために

お國のために、奮進又奮進した、あの時の心根を行末永う忘れまいぞ何事を行ふにも、常にこの決心ぞよ、といふ心でありませう。血涙の結晶たるこの詩歌の中には、乃木閣下が如何に體育の先生を敬し且つ愛し、體育の道を敬し且つ愛されたかを、察することが出来ると思ひます。

一雄子三羽

右ハ岩瀬御靈ニ於テ捕獲セシ處以思食下賜候間
此段御傳申進候也

十一月三十日

上直 待從

乃木陸軍大將閣下

時折の會食の時など、閣下は手づから馬場先生に、割箸を割つてやり、蜜柑の皮をむいてやり、卵子を割つてやり、テーブルを特に用意してやり、外套を着せてやつたりされたさうであります。

先生の應接室には、先生の御兩親の金婚式の時、大迫尙敏閣下が揮毫された「和氣致祥」の額、御大喪中乃木閣下が、二重橋外にて、宮城を見かへられた、馬上の御姿の寫眞、閣下の無恒産而有恒心者、惟士爲能の軸、學習院生徒を連れた片瀬の游泳場にて、馬場先生の富士山の畫に合作して、仰ぎ見ればこゝろもいととすみわたる朝日てりそふ富士の神山、雨降らはふれ風ふかは吹けとも云へぬ天幕かなの短冊などが、掛けられてあります。御殉死の前、皇太子殿下に御献上になりました、中朝事實上下二巻は、特に馬場先生にも下されてゐます。

第二節 遊佐教官と山本教官

この學習院に於ては、中等科四年生以上に、體育の一分科として、馬術が課せられます。こ馬術を課するに當りまして、乃木閣下は、教授用の馬匹選擇に於て、既に全然その着眼點が、非凡であらせられました。

本院の廄に飼養する所の馬匹は、常に十七八頭ありました。其多くは閣下の御盡力によりまして、宮内省又は殿下方より下賜されたものであります。曰く蒙古王より明治天皇陛下に御贈呈の馬、曰く、宮殿下が斯くくくの御功績を樹てられた時の御乗用等何れも由緒ある名馬であり、且つ國の寶の馬のみであります。中に閣下に特別の縁を結ぶ二頭の駿馬がありました。曰く宮天號、曰く乃木號、宮天號は明治三十八年一月、難攻不落と稱せられた堅城を、餘儀なく開城せしめた其當日、鹵獲したもので、開城の記念として、該馬を宮天と名付け、閣下より皇太子殿下に献上せられ、暫らく東宮御廄に、飼養せらるゝの光榮を得ました。同年七月十五日、殿下より學習院に御下賜となり、爾來教授の用に供して居ましたが、翌三十九年、閣下は目出度凱旋せられ、次いで四十年、職を本院に奉ぜらるゝこととなり、該馬は、再び閣下の撫育を受くる、幸福を重ねたのであります。

曰く乃木號は、旅順開城の日、敵の要塞司令官スタツセル將軍と、水師營に會見された

時、將軍は記念として自己の乗馬を贈らんことを請ひしが、閣下は、之を受けずして鹵獲馬匹として戦利品に屬せしめ、ステツセル將軍に因みて、壽號と命名せられ、軍用馬として之を乗用せられました。が、凱旋後更に拂下を受け、閣下の所有に歸しました。壽號はアラブ産の牡馬で、體質氣品共に優秀でありました。閣下は該馬の終を完うせしめんことを思ひ、佐伯友文氏が、牧馬に熱心なるを聞き、大藏中將を介し、種馬として、之を同氏に贈られました。蓋し佐伯氏は鳥取縣東伯郡以西村の人であつて、累代勤王の志篤く、又牧馬の事を善くしたからであります。爾後壽號は、六十有餘頭の仔馬を擧げましたが、何れも良駿にして、産馬會社に於て、優等賞を受けました。而して氏は、就中最も優れたるもの一頭を選び、明治四十五年五月閣下に寄贈されたものが即ち乃木號であります。

この學習院の馬術の先生に、騎兵大尉山本盛重といふ方があります。我國に於て馬術の權威は、陸軍騎兵實施學校の教官、騎兵少佐遊佐幸平氏と、山本權兵衛伯の甥又大迫尙道閣下の義弟にあたる、前記山本盛重大尉とであります。

時は明治四十三年の九月、山本氏が陸軍騎兵實施學校の二年學生の時、卒業試験の一課目として、生徒にとりては重大な意味の、長途競走騎乗が行はれました。當時遊佐

少佐は、同校の中尉教官であつて、學生と共に此の競走に加はりました。この企は、馬の最大速力及持久力を研究することも、目的の一でありました。東京を出發し高崎、輕井澤、小諸、御代田上、諏訪、甲府、八王寺を経て、再び東京に歸還する、全行程四百六十八基米、即ち凡そ百十七里を、將校一兵卒一より成る、六ヶ班で行つたのであります。此内平地といふのは、全行程の約三分の一で、其他は全部山地、殊に此年の八月以來、數十年來、此地方に見ることの出来なかつた、慘澹たる、二回の大水害で、碓氷、蓬田、笠取、和田、笹子、小佛の諸峠を初め、道路の破壊甚だしく、碓氷峠の如きは、舊道の又舊道を辛うじて通過し、又更らに出發當日より、連日の降雨のため、河水は到る處氾濫して、行進を著しく遅延せしめ、漸く四日目の夜十時五分、遊佐少佐が第一着の名譽を博し、次に凡そ一馬長遅れて山本大尉が、決勝線に突入し、更らに十五分乃至三十分遅れて、他の二ヶ班が着き、残り二個班は馬の故障のため、中絶の止むなき狀況でありました。

遊佐教官と山本教官とは、高崎を出てから、終始前後して競走しました。彼が走る所までは此も走り、此が行く所迄は彼も來るのであります。晝夜の別なく走りつゞけ、漸く三日目の夜半、甲府に着きました時には、山本班は人馬共に疲勞の極に達し、路傍に手綱を執つたまゝ、一時間の假眠を貪る事にしました。目醒めて見れば、南無三、既

に二時間を経過して居たのに、驚いて飛び出し、此差を恢復せんと、翌日も終日走り続けました。夜に到るも、相手の影だも認め得ませんでした。夜八時八王寺の町で、人馬の休養をなし、多摩川の渡船に馬の呼吸を休め、立川より更に連続一時間以上の伸暢駈歩をつづけて、府下下布田といふ所まで参りますと、雨の降りしきる暗夜の中に、思ひ掛けなくも、遊佐班が如何にも疲労した姿で、走るのに追ひ付きませんでした。山本教官は思はず歡呼の叫を挙げつゝ、部下と共に馬を飛ばして、全速力襲歩に移り、遊佐班に突入しました。こゝに遊佐班の外の二班も共に、之と前後して競走して居りました。八騎道路一杯になつて、死者狂の競走を始めました。甲州街道とは云へ、降雨の暗夜、道路一杯に馬を並べて、笠々相磨するの壯絶快絶。雨の暗夜の危険よりも、斯うした男性的の一種の痛快さに、凄まじい勢を現はしました。馬の元氣を鼓舞せんがためと、はたまた警笛代りのために申し合せたやうに、一同は大聲を挙げつゝ、三里半の猛烈な競走を演じながら、決勝點に近づきました。この間次第に落伍者を出しまして、最後は遊佐教官と山本教官との二騎の争となりました。斯くして最後の一鞭に、山本教官は、凡一馬長勝つたりと思ひ込んで、決勝點の方に飛び込みました。然しこれは間違ひでありました。出發前示されてあつた決勝點は、

學校の北裏門といふ事であつたが、降雨其他の関係で、第三兩覆馬場に變更されたのでありました。大聲連呼して、勢よく飛び込んだ山本教官には、歩哨が、決勝點は第三馬場と叫んだ聲が、聞えなかつたのであります。後から續いた遊佐教官は、歩哨のこの聲を聞いて、直ちに馬首を左に轉じつゝ、然も山本教官が、氣附かずに真直ぐに行く傾向が見えたので、少佐は

「道が違ふぞ、第三馬場だ」

と、大聲を挙げました。こゝに山本教官は、電光の如く感謝の念に撃たれつゝ、馬首を左に向け直して、第三馬場に突入しましたが、丁度反對に一馬長の差を以て、遊佐少佐に敗けました。山本教官はひらりと馬上より跳び下りまして、遊佐教官の手を握り、やあ愉快でした。!!!



遊佐教官が、留學中在佛紀念として、大正三年六月二十七日、同國ツール市に於て撮影し、山本教官に贈呈されたもの。

敗けかけてをる遊佐教官が、後ろから勝ちかけてをる山本教官に、道が違ふぞ第三馬場だと教へるこの心をお互は何と見るのであります。勝つた筈の山本教官が、正に敗けた瞬間遊佐教官の手を握つて、やあ愉快でしたと語る感慨をお互は何と感ず

るのでありますか。「道が違ふぞの一言と、やあの一句に、スポーツマンとしての情操の美が、申分なく現はれてゐるではありませんか。遊佐教官は仙臺の出身、山本教官は鹿兒島の出身であります。

私共の競技運動に於ては、唯々勝ちたい／＼許りの一心に、ともすれば汚い卑しい本能が、勃發して來るのであります。この時に當り、吾人の修養上、打ち消さなければならぬこれ等の本能に、敢て壓迫討伐を加へて、こゝに情操の美を發揮する時を與へ、且つ之を訓練附けるのが、現代體育の着眼點であります。

尋常小學四年の讀本教科書の中に、競馬の一條があります。信作と耕造は、馬首を揃へて鎮守の杜の競馬場に入りました。神主の祝詞が濟むと、一番大鼓で支度をし、二番太鼓で並びました。第三の太鼓が鳴るが早いか、信作と耕造は、我劣らじと馳け出しました。二人は五分五分に進んで行つたが、どうした機みか、信作の馬は躓いて、前足を折り、信作はつるりと這つて、池の中に轉げ落ちました。然も其處は深い所である。耕造は驚いて、ひらりと馬から飛び下り、一たん沈んで又浮き上つた、信作の襟を引きつかんで、ぐつと岸へ引き上げました。見物は皆々耕造の勇らしい行ひに感歎しました。「感心だ／＼、偉い子供だ、見上げた子供だ」といふ聲は、少時止みませんでした。

た。見物は皆耕造の情操の美に酔はされた、其瞬間から、かねて競馬が原因で、亂麻の如く亂れ争うてゐた二つの村が、和解したのであります。私共は今後、兒童や青年の體育指導に際しまして、廣く多くの教科書及參考書の中から、力を籠めて體育精神を説くべき、幾多の事項を發見したいと思ひます。

遊佐先生の御話に「馬術の要諦は、人馬一體の境地に在るので、昔の大坪流も現代の獨逸馬術も佛蘭西馬術も、其の境地に進む道筋こそ異なれ、結局は同様である。獨逸馬術は總てが學理的なるに對し、佛蘭西馬術は自然的である。今日の我が陸軍の馬術はそれ等を折衷して出來て居る。凡そ何が愉快といつて、人馬の氣分が一致し、騎手が別に脚や手綱を使はずとも、頭で考へると直ぐ馬が其の通り動く時の氣持ほど、愉快な事はない。所謂鞍上人なく鞍下馬なく、人馬共に世の中の總てから超越して、三昧の境に遊んで居る時であつて、馬術の妙味は、全く此一點にあると云へやう。水馬も面白いものだ。馬は水練が達者で、今日の馬ならば、阿部豊後守の様に濁流の隅田川を乗り切つて、五萬石位戴くのは、容易い事である」と申されました。

第七章 鳥取縣體育

こゝに鳥取縣體育の筆を執るに當りまして、鳥取縣體育の父たる目下御洋行中の三橋喜久雄君に、遙かに敬意を表します。

第一節 着眼一步の差

我國で比較的體育の發達してゐる縣としては、九州地方では福岡縣、山陰道では鳥取縣、山陽道では岡山縣、關東では群馬縣等であるらしい。私は茲に大正六年の秋、鳥取縣の體育、主として同縣八頭郡の體育を視察しました時の感想を述べます。此八頭郡若櫻校の主席訓導と、或る青年訓導とが殆んど時を同じうして、群馬縣の同じ學校の體育を視察しました。この青年訓導は、中等學校の體操科免許狀を持たれた方で、その學理及技術に於て、立派な方でありました。其君の學校を會て視察したことがあります。

體操科は一面之によつて、他の諸學科の成績を良好ならしむる、基礎學科としての意義及目的を有してゐるものでありますから、この意味に於て其君の學校に參りました。先づ前三時間、教室内の模様を見ました。其結果この學校の體操科は、運動場丈の體操科であつて、全教育の上に全然交渉の無いことを知り、且つ斯くの如き體操科は

教育上價値の少いものであると考へた事がありました。四時間目に體操を見、五時間目には同校高一二女の、其の君の體操教授を見ました。その先生は、初冬の寒風にめげず、普通の猿股一つで運動場に現はれました。その潑瀾たる元氣には感心しましたが、然かも同君が、高一二女生を擔任する教師の服裝としては、甚だ醜い事を感じました。聽て準備運動もすみまして、懸垂運動になりましたが、教師は生徒一同を、己の周圍に集めて、前方斜懸垂の示範をいたしました。ここにその醜體は益々甚しく、是には思はず慤慤しました。無論この醜體も、それだけでは大したことはありません。唯だ茲に憂ふる事は、斯くの如き不用意なる先生の、三百六十五日の仕事が、一事萬事でなくば、幸であると思つたのであります。この生徒等の技術も頗る優秀なものであります。その跳躍運動の如きも、恰かも蝶が飛び、天狗が舞ふやうでありました。然し遺憾な事には教育上味ふべき流れが、缺けてゐたのであります。

然るに若櫻小學校の體育は、之に反して先づ兒童の教室内の學習状態に於て、職員一般の氣分に於て、既に教育體操の價値を認めたのであります。その體操技術は、頗る地味なもので、一寸見ては平凡であるが、大に敬服すべく、大いに啓發された事が多々あつたのであります。同じ時同じ所の體操を視察して、歸つて植ゑ付けたのであり

ます。が、兩君の着眼一步の差は、數年後に於て千里の遠きを致したのであります。前者は視察上技術のみを視、後者は教育の上から視て歸つたのであります。

第二節 北畠八頭郡長の卓見

八頭郡體育の視察に臨みまして、私共一行は先づ禮を盡すために、八頭郡役所を訪問しました。時の郡長は法學士北畠良一氏でありました。この會談一時間は、私の體育指導者としての生活中、これ迄に曾て經驗しなかつた最も愉快な一時間でありました。その大體を申し上げて見たい。先づ郡長室に這入りまして、第一に自分の眼を刺戟したものは、永井道明先生の體操姿勢圖でありました。寡聞の私は未だ曾て、郡長室に體操姿勢圖の掲げられてあるのを見た事がなかつたのであります。諸君、現代人はあまりデリケートに、あまりに敏感になつて、其の掲げてある姿勢圖を見るや、それが永井先生のだから、良いとか悪いとか、櫻井博士のだから良いとか悪いとかいふやうな、批評を試みる者もありますが、私共は其れが何れであつてもよろしい。郡長が體操姿勢圖を掲げて下さる御精神に、只々感謝するより外はないのであります。八頭郡は大正六年の夏、高等師範の三橋助教に依頼して、體操講習會を開いたので

あります。郡長は型の如く開會の辭を述べ終つた後に、附言して曰く、この體操は郡長としても、個人としても、心得て置きたいから、御邪魔であらうが、自分は男の先生の仲間に、妻は女の先生の仲間に入れて、一週間の面倒を見て戴きたいと依頼されたさうであります。二日三日と経過致しますに連れ、郡長の顔にも、疲勞の色があり、と見えて來ました。分けて奥様の疲勞は、非常なものであつたさうであります。疲勞憔悴しながら、郡長と共に、一週間の體操講習會を受け了へられました。この二つの肉彈によりまして、八頭郡の先生方、わけて女の先生方が、非常なる暗示を受けた事と存じます。百萬遍の體育獎勵の訓示よりも、どれだけ先生方の心臓を、波立たせたか知れないと存じます。

この年の秋、郡長は町村長會議を開いて、指示事項や諮問事項の外、重要なる協議事項として、最後に町村長聯合體操會に關する件を附議しました。之より先き町村長は、この提案を知り、全部之に不同意でありまして、會議の日は、某村長が代表して、反對意見を述べること、話が纏つてゐたさうであります。愈々町村長聯合體操會に關する件が上程されました。何が町村長。どうする聯合。何を體操。であるのであります。郡長の説明終るや、某村長は、御趣旨は誠に結構であります、吾々一同賛成出

來かぬる由を述べました。茲に於て北畠郡長は、此の計畫の目的は、先刻説明した通り、至つて簡單である。今日のお互は、お互の子供や孫の健康を冀ふのである。これがためには、一日町村役場吏員及郡役所吏員の體育的總動員を行ひまして、敢て吾々の下手な體操會を演つて、青年や子供に見せたい。あの最も感じ易い青年や子供等に響かないで何としやう。體操獎勵の事に關し、百萬言を費すよりも、どれ位體育振興氣分の上に、有効であらうか、眞に子供や孫の健康のためであるから、拵げて賛成して戴きたいと熱心を吐露されました。

茲に一つの妥協案が成立しました。それは郡役所吏員町村役場吏員教育會在郷軍人分會青年團の五團體の聯合運動會を催すことに、協議が纏りました。此の當日數萬の子供や青年が見物に参りまして、空前の體育氣分を味ひ、且つたゞ心嬉しい一日を送つたのであります。例へばリレーレースに於て、向ふ側には自分の村の名を大書した旗が樹て、あります。此方側には、その旗印に向つて四人の叔父さんが並んでゐます。先頭に立つのは、自分の村の村長さん。次は自分の學校の校長先生。その次は自分の村の兵隊さんの會長さん。その次は自分達の、兄さん達の會長さんが整列してゐます。この整列を見ただけでも、どんなにか子供等や青年は、嬉しかつ

たらう。短銃の合圖に、一齊に村長さんが駆け出しました。白髮頭の村長さん、腰の曲りかけた村長さん、我劣らじと、駆け出したのですから、子供たちや青年の眼には、その滑稽なこと、その無器用なことに、腹綿も煮えかへるやうであつたらうと察せられます。記録には、此時歡呼拍手の響で、震天動地の觀があつたと、記載されてあります。それを見てゐた子供達は、わけもなく大聲出して、笑つたであらう。青年も、わけもなく手を叩いて、大笑に笑つたのであります。けれどもこの笑たるや、平素の笑ひと、事ちがひまして、感謝の笑、奮發の笑であつた事と信ずるのであります。

會て三好傳育官長閣下は、凡んど毎日の放課後、御自身が先登に立たせられ、各傳育官御附武官並に各侍醫殿下關係の各先生方を御用邸に集め、林先生をお頼みして、體操の練習を熱心に受けられたのであります。此の事を察しますのに、官長閣下の御意圖は、淳官高松宮兩殿下の體操御獎勵に在つた事と存じます。之を御覽になられました皇子殿下の御頭の中に、誠に下手な傳育官長等の體操に、御感興も斜めならざる間に、知らずく強く、

一、體操の先生が尊重されて居る事

一、體育を尊重すべき事

の御精神が、堅確に這入つた事と、恐察されるのであります。さればこそ林先生が、殿下方に對し奉りて、存分の御教育が出来るのであります。

この官長が曾て、仙臺の第二高等學校長時代に、兵式教練の先生が缺勤した時に、御自身指揮刀を振つて、教練の授業をなされた事もあるさうであります。教練が御得意で、號令をとられたのではないのであります。學生として、眞面目に教練に努力せしむる精神を養成せんがための御心で、あつたのであります。彼と云ひ是と云ひ、如何にも其思付が非凡であり、その着眼が尋常一様でないと思ふのであります。

第三節 非凡なる着眼點

前記若櫻の首席訓導が、群馬縣體育視察の歸途、午後一時頃郡役所に立寄りました。北畠郡長に會つて三十分間許り、その最も感心した點を報告し、暇乞ひしてこゝより三里山奥の任地若櫻町へ歸らうとしますと、郡長は、君の今の話は、北畠にとつて、非常に勉強となつた。就ては唯今郡役所吏員全部を、此部屋に集めるから、今の話をもう一度語つて貰ひ度い。口頭復命にして頂き度い、首席訓導は、頗る當惑しまして、私は誠に口下手で、殊に斯ういふ席では、逆も演説などは出来ませんから、何れ書類で精し

く申し上げ度い」とお断りすると、郡長は隙さず、口下手でも結構である。下手ならば、時々僕が横槍を入れて、勢援するから、元氣を入れてやつてくれ」との事で、訓導も否むに術なく、語り始めました。問題が主要な點になりますと、郡長は、諸君、そこは大坂な處だと、吏員には注意を喚起し、併せて盛んに聲援を與へて、訓導を勵ましたさうであります。訓導はその勢に乗じて、辛うじて口頭復命を終わりました。郡長は起つて、「諸君が、今後土木事務で、各町村に出掛けた折、勸業事務で各町村に出掛けた際、只今の報告に基いて、只今の資料に基いて、『村長さん、あの肋木では数が少い、あれを倍にふやしなさい。』村長さん、あの跳箱は、もう一つこしらへなさい』の忠言と勸誘をしたならば、師範學校の體育の先生が、やかましく言うたのよりも、校長先生が頼んだのよりも、其響きが宜しいであらう。今後君等は北畠の心を心として、今の話に基いて、地方有志に時に觸れ折に應じて、體育の道を鼓吹して欲しい」

との御訓諭がありました。更にその首席訓導に對しては、君が町に歸られたならば、何卒君の町の町會議員に對して、いまの趣旨を話して戴きたい。君の町には十六名の町會議員がある。一晩に一人宛がよからう。一晩に二人となると話が急ぐ、急いだ話に徹底はない。徹底しなければ徒勞であるから、一夜に一人づつ、心落ち附いて、

ゆる／＼話して貰ひたい。而して十六人の訪問が終つたならば、其旨北島に通知して戴きたい。其際北島は君の町へ行つて、郡長としてのお願ひの筋を町民諸君に訴へるであらう。」と申されました。その着眼が非凡であり徹底的であります。

時経て學校長會議が開かれ、指示及諮問事項が済みましてから、體操教育振興に關する件が附議せられました。然る所、或三人の校長は、反對意見として、郡長さんの御意見のやうなわけでは、吾が八頭郡の教育が、體操萬能に陥る旨を述べました。之を聞いた郡長は、只今反對意見を述べた學校長の學校に對しては、自分は郡視學を同道して、明日は某校、明後日は某校、明々後日は某校を訪問します。而してその必要があるか否かを充分調査して、その上で改めて相談致します」と聲明して、問題をその儘、打切つてしまひました。

驚いたのは三人の校長であります。私が同縣視察の際、恰度その三人の校長の一人に逢つて、その當時の模様を聴きました。翌日朝になると、郡長は案の定、視學と共に來校しました。形勢險惡の豫想は、全く外れまして、體育の事には一言も觸れず、四方山の世間話に雑談を交へられつゝ、兎も角午前中體操を視察されました。晝食が済みますと、郡長は校長に向つて、君。今日私がお訪ねしたに就て、その形は寔に意地惡

い形になつてゐるが、どうぞ誤解のないやうに願ひたい。昨日あの席で、私が押してお願ひすれば、諸君が賛成して呉れることは、萬々承知してゐた。然しそれでは、郡長として壓迫になる。實をいふと、私は今或る會社の問題に没頭してゐて、その會社の問題が甘く纏らないで、解決しないとすると、郡としての大問題であるといふ、問題を控へてゐる。今日此學校に出掛けて來るといふ事は、私として眞に容易でなかつた。併し北島は、體操教育の事に關しては、この心配の中にも、この忙しい中にも、押して來らざるを得ない、已むに已まれぬ精神を持つてゐる事を、了解願ひたい。僕の提案に衷心賛成して貰ひ度い。するもせぬもない、校長は心から頭を下げてしまつたのであります。

次に町村長會議を開きました際、體操器械設備に關する件を附議しました。この時若櫻町の奥の山又山の某村の校長が發言されました。私の村は、年々歳々壯丁検査に於て、その體格の良い事、鳥取縣第一等でありませぬ。又兒童の體格も、縣内で一番よろしいので、體操器械の必要も少ないし、且つ村の財政の都合上、兩三年間は體操器械等の設備が出来ない」と説き立てたので、郡長は稍色をなし

「意外な事を聴くものである。若し北島の施設經營が誤つて、今後十年の後に、八頭

郡児童や、青年の身長一寸減及體重一貫減の統計數字を、僕の所へ齎して、郡長この事實を何とかすると攻め立てられたとしても、北畠に於て何等心外の點を持たない。若し運動教育によりて、このお國のあの子、あの青年、あの處女、あの生徒等の頭の中の、一角二角を切りくづして、善導美化する事が出来たとしたならば、身長が一寸減つても體重が一貫目減つても何等遺憾の點を持たない。抑も人間は豚のやうに貫目て賣買する動物ではない。

と極言されたさうであります。この言たるや實に極端ではありますが、その精神には、大いに参照すべき點があるのみならず、私共の從來の一缺陷に向つて、極めて適切なる注意を與へられたものであると思ふのであります。言は極端であります。この心は大いに採りたいと思ひます。凡そ物事の隆昌を致すには、働く人と助ける人とが必要であります。若し鳥取縣に、この北畠郡長等の如き助ける人が無かつたらば、三橋氏等の體育の仕事も、あれ迄に進歩發展の日を、速かにする事が出来なかつたかも知れませぬ。

第八章 町や村を救ふための體育

國府津と小田原との間を通ずる、舊東海道に沿うて、蜿々長蛇の如く連れる、長さ一里餘の海岸村、戸數千餘の酒匂村がある。住民の職業は種々雑多で、農業・漁業・魚商・小商店・職人・日傭業、殊に約百戸の特殊部落を有するかと思へば、貴顯紳士・富豪の別荘等がある。それ等各階級の子弟の集れる、千人餘の兒童を收容する學校が、即ち神奈川縣足柄下郡酒匂小學校であります。由來此村の人、堅實なる生業に従事せざる者多く、貧富の差は激しく、且つ封建時代のすさみたる、所謂酒匂川渡し場の傳統を承けたる子弟の集團なれば、教育者の經營苦心、實に甚大なるものがあるのであります。杉山和三郎氏が、大正五年五月四日當小學校長として赴任した當時の報知新聞に、杉山小學校の鬼界ヶ島に轉任して來たと掲載されたのにも見ても、其の内容の梗概を察知し得らるゝであらうと思ひます。

従て此學校の訓練の狀況は、當時甚だ遺憾なるものが多かつたのであります。運動場に遊ぶ兒童の粗暴鄙野、見るに堪へざるものがありました。尻をまくりて而も跣足、野卑なる言語を用ひて、互に追ひかくるあり、小石を投げて危険を顧みざるものあ

り、跣足のまゝ、教場に昇るものあり、便所の如き汚損して、入るに忍びざるものあり、訓戒を與へられて、校外に飛び出で、無斷歸宅する者さへあり、女教員の悪口を言ひて、看護當番の責に任ずる能はざらしむるあり、その惡戯枚舉にいとまなかつたのであります。

こゝに日獨開戦まで獨逸大使であつた特命全權大使杉村虎一閣下は、當時本村海岸の別荘に起居せられたのであります。大正五年七月十二日來校せられ、本村及本校の現状は、眞に之を看過するに忍びない、而して之を立て直す道は、教育體操である旨を力説せられました。校長思へらく、以上の如き校内の有様なれば、尋常の手段にては、到底教育の効果を擧ぐべくもない。是に於て意志練磨の教科實行の學科たる體育の特別施設をなし、根本より訓練の道を立て直さんと、固い決心を定めました。依て直ちに職員を召集し、職員の娛樂を運動とし、先づ兒童に模範を示して、大に之を奨勵すること、體操を本校教育の中心科とし、意志教育を施し、修身科と相俟つて、訓育の實を擧ぐるに努力することを校是とすることにつき、全職員に諮り、全會一致の意見となり、足並揃へて邁進することになつたのであります。斯くして校長は、閣下に衷心其の援助を請ひ、閣下の幹旋により、閣下が瑞典公使たりし頃、同國に留學せられし、

戸山學校教官學習院御用掛歩兵大尉林保吉先生を聘し、瑞典の體育狀況と我國體育の實際とに就ての講演を御聞きすることになりました。本校の體操は、こゝに萌芽したのであります。

大正五年七月十六日講演

瑞典獨逸の教育と體育 杉村虎一閣下

瑞典體操と日本人の體育 林保吉先生

推讓の徳厚き林先生は、酒匂小學校體育の今後の徹底的指導につきて、永井道明先生を推舉されました。

この秋の一日閣下は永井道明先生の御宅を訪問せられました。先生は「閣下が若し御用とあれば、自分の方から、參上致しましたのに、態々お出かけ下さいまして、恐縮であります」と挨拶しました。閣下は「永井君は外國の土地を踏まれた紳士であつて、國を思ふの念慮に於て同感であらう」と前提され、

「私は二十年ばかり、外國で御奉公申し上げ内地とは接觸する機會が少なかつた。此度歐洲戰亂につき、暫く親しく國情に接する機會を得たのであるが、唯今靜養して居る、あの酒匂村は寔にやくざな村である。寔に氣の毒な村である。あんなや

くざな村は獨逸國には一個村もありませんでした。あの村をあのまゝ放任するに忍びない。あの村を救ふためには、何ういふことから着手したらよいかに就て、考慮を重ねた結果は、貴下が専門として研究して居られる、あの教育體操を、酒匂村の全児童及全青年に、課することより外に道がないので、本日お訪ねをしました。貴下は日本國中を相手にさるゝ御多忙の身であつて、酒匂村一村に就て、度々來て頂くことは、甚だ注文が無理だと思ふけれども、何卒月一回宛でもよいから、末永く酒匂村の御指導を願ひたい。」

と懇々のお依頼ひでありました。この閣下の御着意は、見事に成功しまして、今日ではこの村は、こゝに動機を發して、學校の事も村の事も實に悉く改革されました。實に隔世の感がございます。

世界の大勢に通じられた杉村閣下、常識を具へられた杉村閣下が、あの村を救ふために、あの學校を救ふために教育體操に、留意せられたことは、私共の大いに深く思ひを致し、且つ味はねばならぬ事と存じます。

杉村閣下の熱誠は、遂に村當局を感動せしめました。村當局者も、本校體操科の施設計畫が、村の時宜に適し、且つ深い意義のあるものなることを理解しました。大正五

年十二月三日杉村閣下が永井道明先生を招聘し、本校に於て體操に關する講演會を開かれました。「體操の目的並に該科實施と設備 永井道明先生」この講演を聴取するに及んで、村當局者は當時財政困難の極にありしにも拘はらず、國民教育の爲め、我が村を救はんがため、體操機械設備費を支出することに即決しました。嗚呼盛なるかな。是れ實に杉村閣下の御熱誠、永井先生の献身的努力に依るのであります。本校が徹底的に體操科を發達せしめんとして、やがて感じたことは、第一に運動場の狹隘であることであつた。第二に乾燥の時期には砂煙が立つて、校舎内にも舞ひ込むことが多く、衛生上有害と認めらるゝことが大であつた。第三には街道に沿ふを以て、通りがりの人々に、體操教授を妨害さるゝことが多かつた。其他寒暑の點に於ても、精神上に影響する風景の點に於ても、不適當なる場所なることを認めためたので、他に適當なる地を卜して、變更すべき必要を、村當局者に述べること屢々であつた。大正六年六月本村助役と校長及職員が、群馬縣下體育を視察して歸るに及び、前述の必要を一層痛切に感じたのであります。是が動機となり、大正七年二月には廣々とした清々とした新運動場が出来上りまして、同十七日運動場開きの意味に於て、郡内各小學校教員を招き、體操教授研究會を開催致しました。此時永井先生は、高二生徒

の實地授業をせられました。

大正十年八月十二日には、九條男夫妻御同伴にて、賀陽宮殿下御台臨の光榮に浴しました。同日は尋常科第六學年の男、高等一二學年女の體操を御覽に入れました。殿下には、非常なる御満足にて、バック一臺其の他御菓子等下賜あらせられました。

杉山校長最近の書信に、回顧すれば、杉村閣下が本村に住居せられたことは、本村本校のために天の救でありました。閣下を通して、永井先生が本校の爲めに献身的に體操科教授の勞をとられたこと、殊に先生は我が全國の體育のために、東奔西走寸暇もなき身を以て、この貧弱なる一酒匂校の體操の向上發展に、時間を割愛され、大正五年十二月三日以來、最初は毎日曜日、時には土曜日より出張下され、熱烈なる指導により、緊張せる氣分を扶殖せられたことがもとで、知らず識らずの間に、職員兒童が感化を受け、遂に今日の實をなすに至つたのであります。酒匂の小學校は、こゝ六年の間に、全く生れかへつた學校になりました。昔の酒匂校を知るものは、今日來て觀たら、**體育は教育なり**と絶叫する、私の言を信ずるでありませう。茲に特筆大書して感謝すべきは、永井先生が十年間を一期として指導してやる」と言はれたお言葉であります。

第九章 群馬縣體育

第一節 大迫尙道閣下の視察

暫く茲に、前任地群馬縣の體育に就て語るの愚を、御許し願ひたい。大正六年九月十日、群馬縣佐波郡東村といふ、寒村の小學校體育視察として、彼の維新當初の薩藩に於ける、建兒の社の稚兒部に生ひ立つた、薩南建兒の餓鬼大將、今は陸軍大將軍事參議官の、大迫尙道閣下には、陸軍歩兵少佐和田正氏を伴ひ、鹿兒島縣内務部長服部教一氏と共に、突然來校せられました。御承知の通り、鹿兒島縣は、實に教育の盛んな縣でありまして、同縣は由來教育通の内務部長を得ることを以て、鹿兒島縣として居ると云はれて居ります。當時の内務部長は、曾て文部省督學官であつた服部教一氏でありました。閣下は東校長に向つて、

「本日御校の體育視察に参りました。甚だ勝手な申分であるが、若し都合が宜ければ、全部の組の生徒の體操を見せて欲しい。」

と御依頼になりました。茲に學校長は一回に二組づゝ案配しまして、全校各級の體操をお目にかけました。閣下の御視察振りは、初約五分間二つの級を見較べて居ら

れまして、閣下に於て甲の級の體操がよいと考へられると、後との時間は、徹底的に甲組を御覽になるといふ風でありました。鹿兒島縣には少將中將大將が三十數人も出た村があるといふことを、傳へ聞いた事があります。一村に三十數人の大中少將を有する村は、我國に於て殆んど他に例を見ないであります。世には薩州系云々などと云ひますが、單に蔓の力のみで、一村に將官が三十數人も出来る譯のものではありません。その依つて来る原因は、色々ありませうが、一つは各家庭に於て、家屋敷を賣つても、子弟を東京に出して、教育せねばならないといふ、意氣込が漲つて居た熱であります。この力が今日の秀才を産んだ最大の力でありませう。一つは先輩の方々が後輩のために、獎學の團體を組織した事でありませう。今の造士館高等學校の如きも、この建設資金が、當時解散になつてゐました鹿兒島縣郷友會にあつた殘金と、之に鹿兒島藩の殘金とを合せたものでありました。東郷元帥、森文部大臣の、外國留學費の如きも、藩の力に負ふ所が多かつたと聞いて居ます。又明治の末年には、島津獎學資金の中にもありました、軍人養成の資金若干に、之に同縣出身の軍人の方々の、寄附金三十萬圓を合せ、五十萬圓の資金を得て、造士會が生れたのであります。この會はこの資金より生ずる金の内、年々三、四萬圓は獎學金にあててゐるのであります。

其内譯の一端を申し上げれば、師範學校長、中學校長等へ、同會より特別の手當をなす、年々の金が、四、五千圓も掛ります。此の縣には他の府縣よりも、各小學校に一人の訓導が多く居りました。この各校一人の訓導の俸給は、同會が負擔してゐます。又時々講習會を開いて、教員を啓發し、教員の研究に資してゐます。數年前永井道明先生が、同會より依頼を受けて、體操の講習に參りました。大正十年及十一年の十二月には、夫々三週間づゝ、戸山學校長菱刈閣下及林少佐殿に、體育の指導を御依頼致しました。其他個人として、後進子弟のため教育費を與へてやつた先輩は、甚だ多いやうであります。西郷隆盛、大久保利通等の先輩が、後進子弟の教育に投じた金は、其額尠なからざるものであります。又よく教育通の内務部長を得るに努むるといふやうな譯で、自然多數の俊才が生れる事になるのであります。

第二節 「揃はぬ體操です」

大正五年七月三日、月學習院教授石井國次先生は、群馬縣利根郡薄根村小學校の體操視察をなさいました。先生は此日早朝沼田停車場に下車し、村長を先頭に、お傳で學

校にむかひました。停車場から十五六町進みました頃、數名の青年が、朝來の労働の軽い勞れに、道を脊に腰を下ろして、休んでゐました。この村の青年は村へのお客様と知りまして、先生に鄭重にお辭儀をして、道に面して腰を下ろしました。先刻來の青年の態度を眺めてゐました先生には、何事をかノートに認められました。校門に程ちかいところまで参りますと、可憐なる小さい子供の群れが、その日の課業を終へまして、門を飛び出して來ました。この時先生は、この子供と、少時間答をしたいと思います。召して、俵から降りました。この子供等は尋常二年の生徒でありました。先生がどの子供を把へて、どういふ質問をするか、私にとりては非常な興味ある期待でありました。

「この叔父さんは」

と切り出されました。何と親しみのある言葉ではありませんか、この親しみのある言葉に、ドギマギしてゐた子供も、やゝ安心の態になりました。

「この叔父さんは、東京の叔父さんであるが、あなた方の學校の體操の、良いといふことを聞いて、今日遙々見に來ましたのですよ。あなたの學校の體操は、どういふ事が一番大切なのか、このお叔父さんに、話して聞かせて下さい」

と、優しく尋ねました。このおぢさんといふ、碎けた言葉には非常に情味がある。子供もこの心易い言葉に安心して、ほんとうの、おぢさんのやうに感じたものか、天真爛漫にこゝろして、早速二つの内容を答へたのであります。

「をぢさん、僕の學校の體操は揃はぬ體操ですよ」

何といふ簡にして要を得た答へでありませう。揃はぬ體操!!!先生の胸は躍りました。凡そ多くの兒童の體格の中には、甲乙色々の程度があります。左右前後が甚しく非相對的に育つて居るものもあります。例へば肩胛骨にしても、頗る非相對的になつてをるものが澤山あります。非相對的肩胛骨を有する、兒童に對しては、非相對的の準備姿勢を以て、諸運動を課するの必要があるのでありますまいか。今日行ふ劃一的教授にはいさゝか疑ひがあると思はれます。

「揃はない體操とは、どういふのか、やつて見せて頂戴」

神の手、神の足は、先生に手本を示したのであります。最後に

「叔父さん、僕の學校の體操は斯ういふ風に頭の先から、指の先まで、一生懸命にやる體操ですよ」

と結びました。此時先生の眼中には、時ならぬ時雨を御見受け致しました。

第三節 青年體操

身心の改革期にある青年に對して、體育の勵行は、實に兒童以上に必要であります。然れどもこの着手には、種々の困難があります。故に私共は先づ手近なる小學校の兒童に努力し、その餘勢を以て、青年に及ぼさう計畫でありました。大正五年正にその機に際會しました。到る處の青年は、自分の弟や妹の體操の熱心にひき込まれ、自發的に學校の教師に、私共にも時々教へて下さいと、願ひ出づる傾向となりました。その組織多くは、月に數回、定期乃至臨時に、早朝夕刻若くは夜間に、青年が集合しまして、教師、在郷軍人及び青年會役員が共同して、指導の任に當つたのであります。夏雲奇峯を亂立し、斜陽尙ほ鎔金の猛威を投ぐる時、七寸の草鞋に、燒灰の如き土砂を踏みしめ、曳々聲を發して體操を勵む若者、霜より白き月光を全身に浴び、刀より鋭き朔風に、面をも振らず、一二々々の掛聲に、白き息を吐きつゝ、汗を野良襦袢に絞る青年。嗚呼斯くの如きの元氣、斯くの如きの壯烈。誰かこの頼もしさに、感激せぬものがありませうか。私は餘りの嬉しさに、竊かに顔をそむけた事が、幾度あつたでありませう。ある時は鎮守の森の夜間體操と、芝居興行とが、對向した事もありました。

がこの勢ひに興行も全滅になつた事もあります。盆踊さへ自然消滅の姿にしてしまつたと云ふ邑樂郡六郷村の青年團は、先年文部省から選奨されました。某警察署長は私に向つて、夜間體操實施のために、青年風紀の大いに改善された事を喜んで呉れました。果然父兄の喜悅となり、識者の満足となりまして、縣一般に普及の勢を示したのであります。是れ蓋し體操が良くなつたからではないのであります。青年が良くなつたためであります。規律運動は、學校體育としては、兎に角、青年體育、社會體育としては不適當であるとの聲が、隨時隨所に唱道せらるゝのであります。が、事實は必ずしも、然らざることを證明してゐます。

第十章 運動教育に情味あれ

運動教育の時間ほど、子供の品性キタウキの露骨に現はるゝものはありません。教室内に於ては、比較的子供の個性が、露骨に現はれませぬ。この子供の個性發揮に對しては、教育者として、手當りを慎み柔らげなければなりません。天性無器用の子供に對しては、よくその努力を認めてやり度いのであります。よい所が現はるれば、盛んに褒

めてやらなければならぬ。悪い所があれば無論矯正しなければなりません。然るに現代體育指導の通弊を見るに、運動中の良い事や美はしい事を認めてやり褒めてやる事は抜きにして、悪い事や正しからざる事に對してのみ、恰も叱言に亞ぐに叱言を以てし、甚しきは罵詈譏諷刺に殺風景なる授業振に陥るのであります。私は某縣某校某君の尋六男の授業振りを視ました。同訓導は同縣の師範學校を首席で卒業した、俊才であります。第一時は修身の授業でありました。其授業振りの懇切、その内容の眞正、その用意の周到申分のない教育に、唯々感服致しました。第二時は讀方でありました。之は多少同君が文章に對する研究が、淺かつたためか、國定教科書の内容を、確實に傳達するといふ點につき、多少の缺陷を認めました。併し大體に於て、良成績でありまして、之亦感服しました。第三時は體操教授であります。同君はパンツをつけて、甲斐々々しく運動場に現はれましたが、その生徒に對するや、叱言々々叱聲怒聲、聊かの情味もない、運動振りを視せつけられたのであります。私は泌み〳〵と感ぜました。同君は前二時間に於て、諄々君子の態度を以て道を説き、その態度その内容、實に立派な良訓導であり乍ら、同じ日同じ君が、三時間目の體操時間に臨まれば、全然別人の如く見ゆるのであります。教授の心に二つあるとも思はれま

せん。之は斷じて、同君の罪ではありません。寧ろ同君を指導した、體育指導者の罪であります。茲に體育指導者側に大なる缺陷が芽ぐまれて居るのを、現實に見せつけられました。私は冷汗自ら反省したのであります。

或る時或子供が、體操の時間に、フトいたづらな行爲をいたしました處、忽ちにそれは先生の眼底に映じました。それと感づいた子供は、顔を赤らめて、「申譯ありません」と、表情の上に陳謝してゐます。この赤い顔をした子供には、最早この場合叱言を言ふ必要もなければ、言うてもならないと思ひます。後日良い時機を見て、頭を撫でてやり乍ら、「あゝいふ事をしてはいけないよ」と、優しく云うてやれば、優しい程センチメンタルな子供の心臓に、響くであります。然るにこの不用意な味氣ない先生は、味氣なくもド鳴り飛ばしたのであります。

つい最近の事、某中學校の體操教師を勤めてゐる、私の友人が、私を訪ねた時の話に、「僕の學校の生徒は怪しからぬ。僕に對して消炭しょうたんといふ綽名を附けて居るといふ。私は之に對して、それは君、實にその中學生の方が賢明だ、君ぐらゐ直ぐ腹を立てる男は、世にも稀である」と、語り合つて笑つた事があります。

道を立てる上には、大いに嚴格に、兒童に臨まなければ徹底しない。今後お互は従前

よりも一層嚴重であり度い。嚴肅一步、一點一分も許さない、態度及氣分を示し度い、但し是と同時に、その嚴格その嚴肅が、五十に増し、百に増大すると共に、爛漫たる櫻花、香へる梅花の夫れの如き、發陽的な快活な温情味が、五十に百に正比例して、お互の動脈を流るゝ修養に、一層心を用ひたい。然らざれば、生徒の本心に響かない事と信じます。春の如き温情の背景を失つた嚴格は、只先生の目付を恐ろしく、顔色を不氣味に感ぜしめるに過ぎないのであります。

呉れ／＼も怒りの手や罰の手を慎みて、慈眼慈手を以て、生徒に臨み度い。恰かも深山幽谷の溪流が、滾々として盡きざる夫れの如き、情味の盡きざる流れの背景をもつやうに修養したいと思ひます。

第十一章 美點を認むる教育

私は數へ年二十一の坊ツチャンで、岡山縣師範學校の教諭を拜命し、同校に滿八年間奉職しましたが、更に群馬縣師範學校に轉じまして、偶然此處にも滿八年間在勤し、それから福島縣に體育視學として滿一年有半を勤めまして、今は縁あつて兵庫縣體育主事として、御奉公してゐます。私の岡山師範在勤中は岡山孤兒院の、岡山に於ける

全盛時代でありましたが、この孤兒院の院長石井氏は、實に立派なる人格者でありました。同氏は岡山醫學専門學校の三年級まで、成績優良に進まれたのに、敢て中途退學されました、それに就て、奇しき情味ある一場のロマンスがあります。

ある正月の中頃、同君は友人の宅で馳走を受け、實によい氣持で、醉步蹣跚詩など吟じつゝ、自宅に向ひました。然るにとある杜に差かゝりますと、その中に嬰兒の泣聲が煎りつくばかりに聞えて居ります。石井さんの足は、ビタリと止りました。瞬間その頭の中には、捨兒川 孤兒といふことが、電の如く感ぜられました。この時の石井青年の主觀、周圍の狀況は、この青年をして、世にも孤兒ほど憐れむべき者はない。ひとしく人を救はんとする職ではあるが、醫者よりも、この孤兒救済に働き度いと、思ひ詰めたのであります。現在の道程よりも、尙一層尊い大切な使命が、自分の眼前に展げられてゐる、神はこの將來ある一青年に神意を傳へてをるのであるといふ神秘的な感に打たれたのであります。今は何を躊躇しませう。石井さんは、飢に泣き寒さに泣く、この嬰兒みどりこを抱いて、我が家に歸りました。かくて兩親、親族の諫めも甲斐なく、遂にこの慈善の事業に身を投じたのであります。即ちこゝに岡山孤兒院は呱呱の聲は擧げました。私が明治三十六年岡山師範に參つた時は、既に二千五百餘名の孤

兒を收容された大孤兒院となつてゐました。これは偏へに石井さんの信仰の力であります。この孤兒院の孤兒は、十人を以て一組として一棟に收容し、母と稱する方が、一人づつ配置せられて居りまして、その棟が三百餘あります。

收容された孤兒には、性質の拗くれたものが少くないから、その教育には大變な努力がいらいます。しかし又中には所謂泥中の蓮で、その品性の圓滿なること、その學力の優秀なること、その健康の基礎も伴ひまして、あたらしこの子を捨てた、父親母親の鬼の心に泣かざるを得ないやうな、よい子供もあります。

この中に、院でも持て餘して居た、一人の犂猛なる孤兒がありました。彼はこれまでに、悪いといふ悪いことを、大抵は行つたでせう。手に了へぬ惡童でありました。この院では、毎日午後三時半頃になりますと、間食を與へるのであります。抑も孤兒の教育は、仲々に資本が掛ります。この子等に、比較的の良い着物を着せねばいけません。よい家に住まはせなければいけない。甘い物を與へなければいけない。然らざれば、得て曲り易い冷え易い、孤兒の心情を、順當に温め導くことが出来ません。ある日は、燒芋の間食でありました。時恰かも石井院長は、院の巡視に出かけました。するとその惡童が、雞にその燒芋の半分を與へてゐる、可憐な姿を認めました。こゝ

では、孤兒の感情陶冶の手段として、多くの馬、牛、犬、豚、鶏等を飼つて居ります。この姿を見た石井氏は、惡童に、「どうだお前は動物が好きか。曰く、大變好きです。馬はどうだ。牛はどうだ。曰く、好きです。然らば豚はどうだと尋ねました。彼は言下に、「ハイ好きであります」と答へた。「それでは今米國から、新着の養豚雑誌が届いて、これには本當の豚のやうに生きて見える、豚の美しい繪も載つてゐるから、私の部屋に来て、それを見なさい」。彼は大悦びで、インソツと石井院長の跡について行つて、その雑誌を見せて貰ひました。彼がこの繪に、餘念なく見蕩れ、餘念なく見耽つて、見入つた姿を見た石井氏は、「お前といふお前は、我が孤兒院で、一番良くない子供である。いかな先生も、先生といふ先生は、皆お前には手古摺つてゐる。しかし今日お前は、あの燒芋の半分を雞に分けてやつたが、何といふ可愛らしい、美はしい心であらう。今の今迄腐つて居ると思つたお前の心も、よくよく見れば、腐り果てゝは居らなんだ。あのヤクザなお前の心の中にも、矢張り美はしい精神は宿つて居る。私は實にお前の美しい心に感心した。夫れ程お前が生き物や豚が好きであるならば、これから本當にこの雑誌にある様に、何萬頭となく豚を飼ふ様な、立派な養豚王になる氣はないか。問はれて少年の眼はみる／＼裡に輝きに満ち、時ならぬ時雨に鎖されて、返事す

る言葉も絞り得ず、唯だ點頭うなづいて泣いてゐました。石井院長は更に、

「然らばお前は將來養豚王になるべき希望に輝いて、今日唯今からその仕度をせねばならぬ。それには横文字がすらくと讀めるやうでなければいけない。日本人で日本の勉強するに怠慢なる現狀の如くんば、到底養豚王にはなれないぞ。石井も今後石井の力の及ぶだけの助力をしてあげるから、お前も今日といふ今日から魂を入れ換へて、學問に身を入れよ」と、懇々訓戒を與へました。

諸君、石井院長のこの教訓を何と見られますか。運動教授の時間に、犛猛性の生徒に對して、この間貴様は斯ういふ事、あゝいふ事、悪い事ばかりしてゐる。今日も亦こんな悪い事をしてをる。貴様は臺無しの子供であるとして、所謂八方塞りの叱言を以て包括のみであつたら、とても其の小供の、浮ぶ瀬がないではありませんか。兎角おとなしい小供は何をしても善く見られて體操の先生にまで氣に入られる。所謂痘痕の跡を笑窪わだかまに見違へるのであります。之は人間である教師側の共通の弱點であり、警戒すべき點であります。

如何なる惡童と雖も、いづこにか善良性がある筈である。その芽ばむ善所があれば之を認め、之を褒め、之を引伸ばし培つちかふの着眼と、親切とがなければならぬ。之は餘程修養しないと、事の善惡を問はず、指導者の眼に這入らないのであります。不良生に折角芽ぐめる良い若芽を、蹂躪して顧みざるが如き、良生に往々誤れる動作を見落すが如きは、運動教育指導者の細心反省し、細心警戒すべき點であらうと思ひます。

今石井院長は、この性惡なる子供に對して、お前の曲つた腐つた頭の中にも、その一角に何とも言ひ得ぬ、美はしい所がある。私は今日これを見て心嬉しいと、第一その子供を譽め、その善所美所を認め、次で第二に事を分けて説明し、第三に、だからしつかり勉強せよとの訓戒は、正しくこの子供の腦裡に、徹底したのであります。

私が群馬師範在勤中、岡山の舊同僚から、參つた年始狀に、君あの時間題であつた、あの子供は、故石井院長の訓言の通り、彼は今や天晴れ農學士となつて、この度養豚研究のため、アフリカ丸に搭乘して、米國視察の途に上つた。丁度此手紙が君の手許に着く頃、彼は太平洋の真中に於て、思出深き故院長に感謝の涙を注いで、あの操山々麓の、あの院長室に、惡少年が美少年に、生れ變つた時の事ども思ひ浮べて、限りなき感謝の心、感謝の聲を叫んでゐるだらう。若し今、石井院長が在世であつたならば、どんなに喜んでくれる事だらうと、彼は泣き崩れてゐるだらう。

私はこの手紙を繰り返し返し／＼読み續けたのであります。今日の教育は、比較的忘れても仕方ない事に、力瘤を入れ、どうしても鍛へておかなくてはならぬ、人間味の訓育に、缺けてゐる點が、往々にして見出されるのであります。

第十二章 昔の體操の心と今の體操の心

私共の若い時に教はりました體操は、一で臂を横に舉げ、二で頭の腦天に指尖を立て、三で掌を頭上に合せるといふのであります。あの體操には、あの體操の長所も、美點も生命もあります。要するに技巧體操で、斯うやれば面白いとか斯うやれば美しいとかいふ氣分が、強く手傳つてゐる體操であります。随つて或先生の如きは、指をこゝで合せるがよいとか、あすこで合せるが美しいとかいふ末節に、盛んに熱を舉げたものであります。

あの亞鈴をくる／＼と、一生懸命に廻したこともあります。それが悪いといふのはありません。他に、もう少しよい體操があるだらうと思ふのに過ぎません。當時は足を一步前に出すにも、一二三四と、四つの調子を取つて出したものであります。今は足を前に出す必要があれば、一度に前に出すのであります。當時は片臂づつ、面

白く廻はすために、啞鈴で啞鈴の頭を叩きながらやつたものであります。今は必要があれば、一度に兩臂を廻すのであります。同じ仕事をするのに、二倍四倍の時間が掛つたのであります。又呼吸運動の如き、胸を後方に托げて、交る／＼兩指尖を以て、軽く胸を叩く形式でありました。私の教つた某先生の如き、夫れを醬油樽に譬へまして、醬油樽に醬油を詰めるに際し、コック／＼棒で樽を叩けば、醬油は一杯によく詰るといふ引例をし、随つて呼吸運動の際も、胸を叩けば、空氣がよく這入るのであると、説明してくれたものであります。當時は感心して聞きもしたのであります。今から考へれば、實に噴飯に堪へませぬ。又或る先生は、息を吸ひ込むことよりも、指尖で軽く胸を叩く、この數の多いのが良いとの、獎勵でありましたから、其主旨に添うて、成るべく多く叩き、良い點を貰ひたさに、呼吸をすることはお留守にして、手首ばかり盛んに動かした、覺えもあります。本末を顛倒するとは、斯くの如きを言ふのであります。この體操は、明治五年當時の文部大輔田中不二磨閣下が、米國の教育視察に上られました際、シカゴ大學に於て、この種の體操を御覽になり、非常に感心せられたのであります。これはダイオルウイス式の體操でありまして、米國の小部分に行はれてゐたものであります。我が政府は明治九年から同十一年に至るまで、シカゴ大學の

卒業生で、ドクトル・ジョージ・ランド氏を、我國體操練習所の教授に迎へまして、この體操を始めたのであります。是れ實に我國體操の振出しであります。其後約三十年間、同一歩調で、此種の體操が繰返へされてゐたのであります。當時田中閣下が、全米國に於ては、英國に於ては、佛國に於ては、如何なる體操が、大勢を支配してゐるかを、御調査下されば、その時より已に今日の體操は、創設せられた筈であります。物事を創始するに當つては、よほど慎重なる調査研究を要することゝ思ひます。時變り星移りまして、現代體育は其用具の如きも、啞鈴の代りに肋木、球桿の代りにバツクになりまして、全然舊形を存して居りません。斯くの如く形の上に全然面目を改めた事は、その精神に於て、亦全然面目を改めたことに、氣附かねばなりません。

第十三章 順應性の教育

今の瑞典ストックホルム中央體操練習所の所長は、セレンと云ふ方でありますが、その前は、バルクといふ陸軍大佐の方でありまして、其の當時の事であります。英國の體育視學官の一人が、この有名なる中央體操練習所の體育を視察に參りました。御承知の通り、英國文部省の學校衛生課には、七人の體育視學官がをります。その主任



佐大クルバ

の方が、中央體操練習所を訪ねたのであります。

丁度月曜の朝、バルク所長は之を迎へまして、

「あなたは、何日間我校の體操を御視察になりますか」

「一週間の豫定であります」

「然らば、私の副官をお貸し致しますから、緩る」と御覽下さい。併し今明二日間には私の學校の體操を見なさらぬ様に願ひます。先づ私の學校の廊下を見て下さい。便所を見て下さい。教室を見て下さい。而して三日目あたりから、體操を見て下さい。然らざれば貴下は、我が瑞典の教育體操の精神を看破することが出来ませぬ。吾國には御承知の通り、幾多の種目に屬する、幾多の體操があります。之を軍人に適用する軍隊體操、之を特に女子に適用する美的體操、之を老若男女を問はず社會一般に奨勵する社會體操、之を學校教育の過程にある生徒に、要求する教育體操、いろ／＼の系統の體操がありますが、學校教育に應用したる體操には、又自ら特有の目的があります。この目的に基いて訓練教養された生徒の舉止動作を、二日間よく御調査下さい。その上で水曜日以

後、體操教授の實際を御調べ願ひたい。然らざれば貴下は我國の學校教育に適用したる體操の心を讀むことが出来ませぬ。

何ぞその言の雄大にして、自信力の籠れることでありませうか。この視學官は始め廊下、便所、教室を見よとは、體操的訓練を受けた生徒の清潔整頓等、規律的行爲の美はしい事を見よとの意味であらうと思つて、半日を經過するうちに、その愚眼、その近視眼的の蒙を啓かれたのであります。即ち清潔整頓の如きは窓口であつて、更に奥深い、千變萬化の外異に對する、順應性の訓育に着眼せることが讀めたのであります。林保吉先生が瑞典に御留學中に、同國の砲術學校を視察致しました時も、校長は先づ同校の基本教科目たる體操の授業に次いで、本物の砲術を見せたさうであります。運動教育を受けた兒童は、理科の教授を受けるに際しても、如何なる作業状態に置かれましても、それ等に順應する性が養はれてありますから、兒童の學習状態を良好にするのであります。體操科は、總て他の教科目の學習基礎教育を負擔するものであります。従つて諸君の學校に體操科の視察をなす方が來られたならば、學校長又は體操科研究主任の訓導から、第一時第二時第三時は體操を御覽になつてはいけません。修身の授業を見て下さい。理科授業を見て下さい。書方の授業を見て下さい。

さい。第四時第五時に體操を見て下さい。そして教室の空氣と體操科状態とを比較して見て下さい。然らざればあなたは、私の學校の體育の心を讀むことが叶ひませぬ」と勇氣を以て、自信を以て、説明立てらるゝやうにならなければ、學校教育に應用したる體操科ではないと思ひます。

體操科研究主任訓導諸君よ。君等は單に我校の體育運動の技術が上達したことのみに満足してゐてはいけない。生徒の體のよくなつた事にのみ満足してゐてはいけない。須らく我校の修身や理科や算術の成績向上を喜ばなくてはならないと信じます。

第十四章 體育は苗床

特に一言を附して、最後の希望を申し上げます。今後若し諸君の學校に於て、女教員諸姉から、私は女ですから、どうも男先生の様に、體操が甘く出来ません。どうぞ若い元氣なあの男先生の方に、私の體操科を受持つて貰ひたいと言ふが如き、交渉があつた場合には、斷じてそれに貸す耳、聴く耳を持たぬ様に願ひます。若しその體操が、學校教育の基礎行爲としての體操であつたならば、苗床であり踏石である所の體操であ

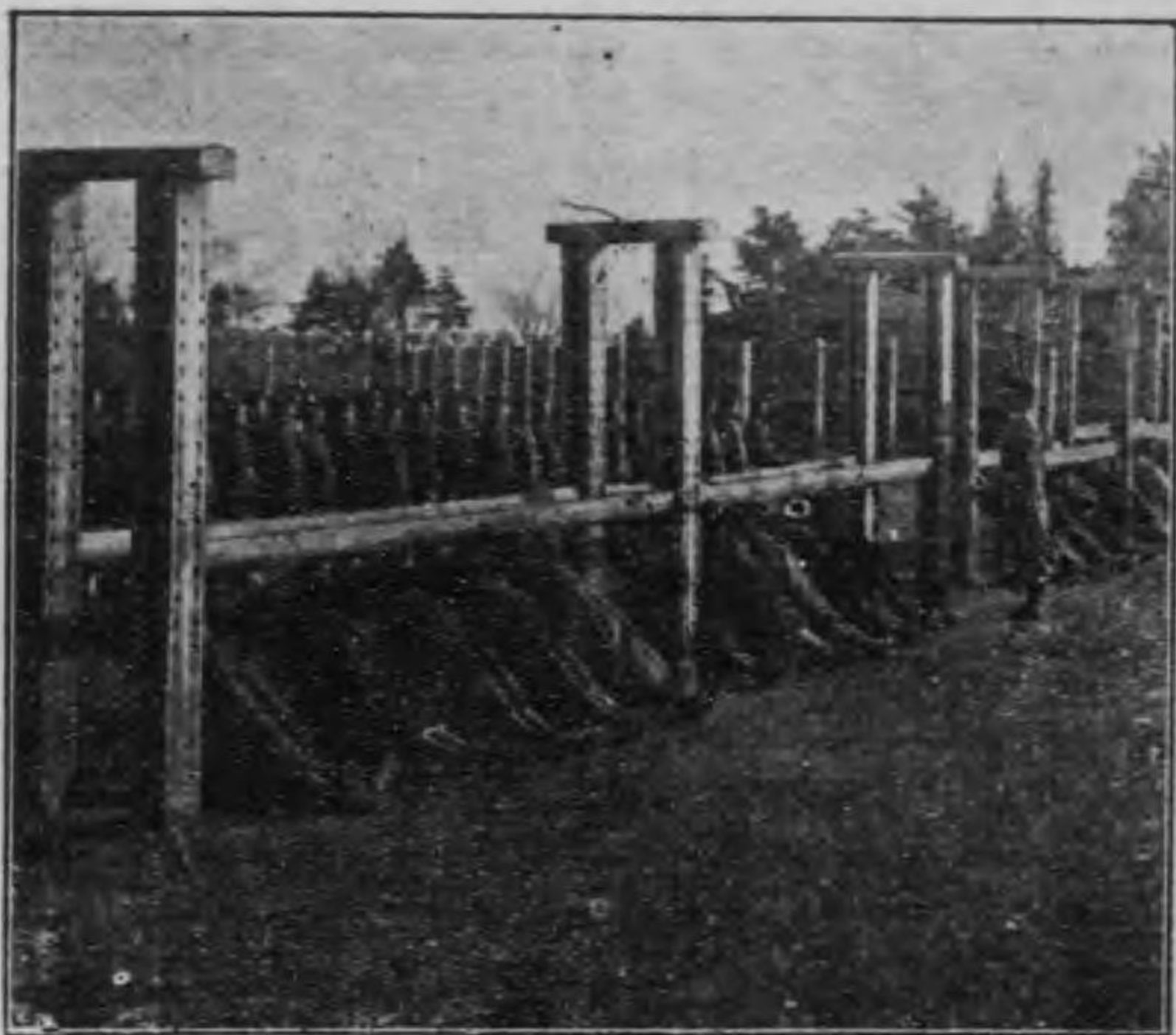
つたならばその體操を他の先生に受持つて貰つて何とする。若し女教員諸姉が修身科の授業を他の先生に受持つて頂くやうで、自分の學級の經營を何とする。同様の意味に置きまして、體操科の仕事を他の先生に御願ひするが如きは、教育就中初等教育及運動教育を理解せざるものであります。

群馬縣の女子師範學校に、グヅさんと綽名された、一生徒がありました。一般的に見ますれば、比較的に女の方が、男の方よりも、グヅさんの傾向があると思ひます。然るにそのグヅさんの女の中で、グヅさんと綽名を取つた、グヅさんでありますから、ほとんど徹底的のグヅさんであつたらうと思ひます。このグヅさんは、師範學校を卒業後、群馬縣佐波郡東小學校へ奉職しました。グヅ先生は、尋常四年の女兒を受持つことになりました。一週間許り経つてから、級長の女生徒が

「先生もつと大きい聲を出して、號令を掛けて下さい。先生の様に小さい號令では、私共はよく動かせません」

と懇願いたしました。諸君この聲は、人間の聲ではありません。實に眞面目に元氣よく運動したい許りの、子供の無邪氣な、自然な、純な聲であります。天の聲であります。神の聲であります。私共邪氣紛々たる者の、彼是の沙汰とは、事違ひます。この

神の聲を、眞向に浴びたグヅ先生は、恰かも電氣にうたれた如く、腦天より足尖まで、ビク／＼と感じました。其後このグヅさんは、月夜の晩になれば、弟さんに連れられ學



大正五年十一月撮影のグヅ山の女訓導所

校の運動場にゆきまして、月夜體操の稽古を、怠りませんでした。努力又努力の二年有半が、夢の如く過ぎました。當時高等師範教授永井道明先生が、廣く全國から選拔し、體操の優秀なる兒童及青年の寫眞を五枚撮影されて、同志に頒つた事があります。その五枚の寫眞の内に、所謂グヅ先生の寫眞が、其の一葉を占めてゐたのであります。諸君この事實を何と見なさるか。

今や民衆化せんとする體育は、選手より一般へ富豪より民衆へ、青年より老幼へ、男より女へと、その普及の歩を進めてゐる觀があります。女も男と同じやうに、體育上の機會均等に浴せんとすることは、婦人の一部が、自ら覺醒して來た、痛快なる現象であ

ります。女子が體育運動をすれば、御轉婆になるとか、女の美を失ふとか、何時の世にも出る反對論も炎えてゐます。然しこれ等は、運動道德を忘れ、運動精神を失うて、他の副次的方便に捕はれた結果を、心配したものであります。真正なる體育運動は、女性の性格を一層美化する上に、必要にして有效なる事を疑ひませぬ。殊に歴史的にも、社會的にも、社交的試練を受くる事少き、我國の女子に對しては、天真無邪氣なる體育運動の際に於て、人間としての訓練を味はしむるために、特に獎勵すべき事と思はれます。

最近の女性體育運動の勃興は、或る意味に於て、女性擁護、女性開放の文化運動とも見られるのであります。從來餘りに女性が肉體的にも精神的にも束縛され過ぎて居た、過去の傳習を破壊し、奴隸的女性を救ひ、人間への體育に參加せしめん一種の文化運動であるとも云へます。即ち此運動は、今日以後益々發展すべき、大いなる流であることは、少しく時代の潮流に觸れたものゝ、悉く首肯する所でありませう。この新時代の要求より見、其本質より考へまして、女性も亦人間として、開放されねばならぬと云ふ事は、體育上から見ても亦眞理であります。茲に於てか女性の一般就中之が指導上直接に重任を有する所の女教員諸君に於ては、須らく女も女として體育の必要

があり、母も母として體育の必要があるいふ點に、十分氣附かなければなりません。私は昨年夏、自分の友人から聞きました。秋田縣の某校某訓導が、急性腸加答兒に罹つて、急に學校を缺勤せねばならなくなりました。校長の手許には、朝一通の書面が届きました。「私は昨夜來、急性腸加答兒で、臥せつて居ます。しかし病氣が病氣ですから、長くとも二三日で全快するであらうと思ひます。其間私の最愛なるあの級には、校長先生を始め、他のどの先生方も一切手を出さない様に願ひます。唯だ校長先生から『おとなしく復習をしてゐよ』と一言も傳へ願ひます」と書いてあつたさうです。この訓導の頭は、一面から之を眺める時、如何にも偏屈な、片意地な性癖のある人とも思はれないでもありませんが、然し此の場合この先生のは、全くさうでなかつたさうであります。自分が日頃丹精を罩めて教へ込んだ、あの教へ子に、他の先生の御手傳を受けさせたくない。自分の生徒には自分の姿を移したいといふ、良い意味の熱心さが、平素の心であつたのであります。此の熱誠な訓導の頭腦には、實に教師として敬服すべき熱情を持つて居ると思ひます。やゝもすれば、自分の組の生徒を、譯もなく無暗に、他の先生に、任すことの出来る教師の方に、寧ろ反省すべき點が多いかとも思はれます。

「私は年寄つたから、體操が教へられない」

然らば六十餘歳の某老訓導の擔任尋六男の學級が大正八年十月十日、林先生の視察の際に郡内第一の推奨を受けた事實を何と見らるか。

「私は體操が下手だから教へられない」

然らば郡内一番體操の下手な先生が大正六年七月二十四日、林先生の視察に接して、獨逸でも瑞典でも、斯ういふ立派な女生の體操は見たことがないとの、激賞を受けた高一二女をつくつた事實を何と見らるか。

お互は今後、君には君の力があらう。僕には僕の力があつた。君には君の心があらう。僕には僕の心があることを、信頼したいものであります。

第十五章 體操科専科教員及其の勤務

誤解する勿れ。私は敢て體操科専科教員を、詛ふ者ではありませぬ。又體操科専科勤務のものを、必らずしも、咀ふ者でもありません。只私はこれ等の一般の現狀に、聊か疑ひを持つものであるであります。即ち一學校が、一人の力弱い頼り少ない體操専科教員に、學校教育の基礎としての體育の重要事を、任せ過ぎて、寧ろ放任の觀あ

る現狀に、少なからざる不滿不安を有するのであります。若し一學校の全教員が、眞面目に體育を研究し努力して居つての上、各訓導の相談相手として、研究上の中心人物として、修養上並に體育に關する學術上教授上に於て、同僚の指導能力ある者を、學校長が専科教員として採用し、首席訓導又は次席訓導位の有力なる位置に据ゑ、且待遇を與へて御遣りになる熱があり、抱負があつての事ならば結構と思ふ。換言すれば體育尊重の名實相伴ふ形式及内容を有するならば、私は當該教員の配置及勤務に雙手を擧げて賛成する者であります。若しこの熱と理解との内容が足らずして、この形を採つたならば、必らずや教育的體育運動の實を擧ぐる事が、出來ないのみならず、此の編成組織の弊に陥る事を信するのであります。

結 論

要するに體育運動には、身體の強健ばかりでなく、情意の陶冶の多くの部分を、含ませなければならぬ。現代體育は、手遊び足遊びの體育、通り一遍の體育、御座なり式の體育、毒にも藥にもならぬやうな體育から、脱却しなくてはならない。匙加減一つで、毒にも藥にもなるといふ、徹底的な合理藥的體育運動を、厲行しなくてはならない。

就中靈の修養や、思想の陶冶を單に、頭腦のみに訴へる途行よりも、肉體を通して修養せしめ、陶冶する方が、優に勝つてをるといふ考へ方が、必要であると思ふ。體育運動を單なる肉の運動に終らしめないで、體育哲學、體育宗教、體育藝術たらしめ度いものであります。この見方より論究すれば、體育運動は、人間への目的に向つて、まづしぐらに走つて居る、直接の奉仕者、人間味への直接の努力であります。

之を他の一面より考察すれば、智力や道徳を建設する手段としての體育であるとも言へます。この一面を失念してはならない。この見方から言ふならば、人間を完全にする智力や道徳への道程であるとも言へます。之を換言すれば、體育運動は、全修養、全教育への根底基礎たることを失念して、瞑想的修養、沙上樓閣的教育に陥つてゐる傾向を、相戒しめ度いと存じます。

合理的體育の開祖リングは、調和ある人をつくるを以て理想としたのであります。是れ筋骨の調和ではない。筋骨と内臓との調和でも未だ足りない。即ち彼は靈の作用を認めて、身心の調和を得しむることを理想としたのであります。「詮ずる所、眞の體育運動は、人をして、逞しき筋骨と健全なる内臓とを有する以上に、崇高圓滿なる人格を兼備せしめるものでなければなりません。即ち瑞典式體操とは、如何にすれば

人間を身心共に眞正に發達せしめ得るかを、着眼した體操であります。

凡そ知る者は言はず、知らざる者ほど大言壯語するとの古語は、眞であると思ひます。本書に壯言大語した私如きは、道を解せざる一個微小の者であります。故に先づ自らが警戒し、先づ自らが反省して、諸君と共に、新日本體育の理想の境に向つて、猛進したい心を、こゝに記したまで、あります。本書の内容、蓋し私の體育反省録であります。

スポーツマンの精神終

大正十三年三月三十日發行

大正十三年三月廿七日印刷

大正十三年三月三十日發行

定價金貳圓參拾錢

著者 矢島 鐘二

發行者 大葉 久吉

東京市日本橋區本石町二丁目拾五番地

印刷者 吉田 松次

東京市牛込區市谷加賀町一丁目拾貳番地

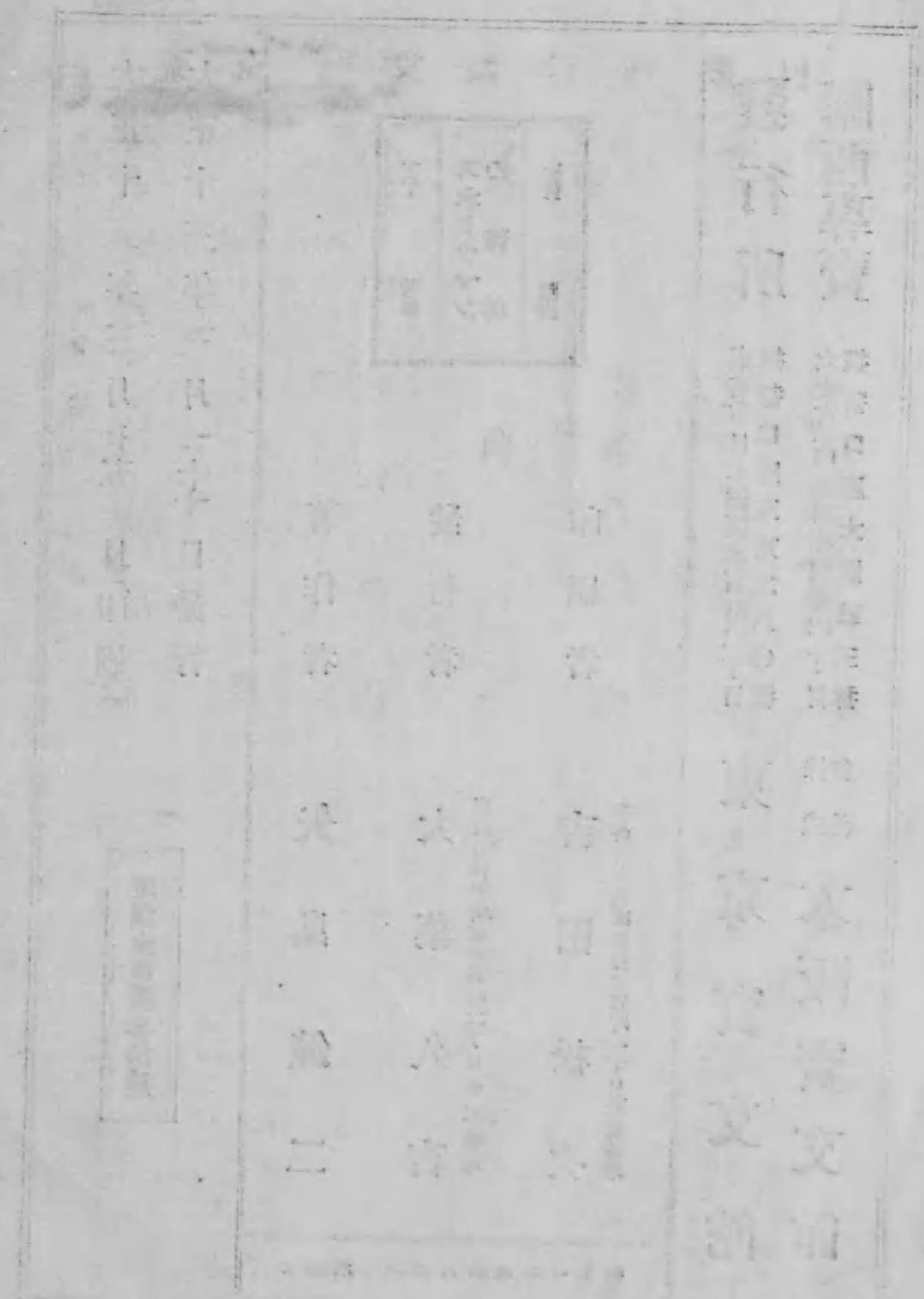


發行所 東京市日本橋區本石町二丁目
振替口座東京二八〇番 東京寶文館

關西專賣 大阪市西區阿波堀通四丁目
振替口座大阪四三番 株式會社 大阪寶文館

東京寶文館發行書目

<p>◆ 山田孝雄著 日本口語法講義</p> <p>全洋一冊裝</p> <p>定價 金參圓八拾錢 送料 金拾八錢</p>	<p>◆ 山田孝雄著 日本文法講義</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金四圓五拾錢 送料 金拾八錢</p>	<p>◆ 千葉縣師範學校訓導主任 吉田彌三郎著 於低學年に於ける自由教育の實際</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金貳圓參拾錢 送料 金拾貳錢</p>	<p>◆ 千葉縣師範學校訓導主任 石井信二著 修身の自由教育</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金貳圓參拾錢 送料 金拾貳錢</p>	<p>◆ 千葉縣師範附屬主事 塚岸衛著 自由教育眞義</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金參圓五拾錢 送料 金拾八錢</p>	<p>◆ 廣島高等師範教授 文學士 金子健二著 言葉の研究と言葉の教授</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金參圓八拾錢 送料 金拾八錢</p>	<p>◆ モオルトン著 蘆田正喜譯述 文學形態論</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金貳圓五拾錢 送料 金拾貳錢</p>
--	---	---	--	--	---	--



東京實文館發行書目

<p>東京帝國大學教授兼 東京高等師範教授 文學博士 吉田靜致著</p> <p>倫理學要義</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金四圓貳拾錢 送料 金拾八錢</p>	<p>同</p> <p>倫理學演義</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金六圓五十錢 送料 金貳拾四錢</p>	<p>東京高等師範 範學校教授 原 擴著</p> <p>倫理學概論</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金四圓五十錢 送料 金拾八錢</p>	<p>吉田靜致共 著</p> <p>國民道德要領</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金二圓五十錢 送料 金十圓二錢</p>	<p>文學博士 元良勇次郎著</p> <p>心理學概論</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金八圓 送料 金二十四錢</p>	<p>文學博士 福來友吉著</p> <p>心理學講義</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金五圓五十錢 送料 金二十四錢</p>	<p>同</p> <p>心理學審義</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金八圓 送料 金二十四錢</p>
---	--	---	---	---	---	---

東京實文館發行書目

<p>東京高等師範 學校教授 文學士 篠原助市著</p> <p>批判的教育學の問題</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金參圓五十錢 送料 金拾八錢</p>	<p>廣島高等師範 學校附屬主事 佐藤熊治郎著</p> <p>文化と教育上の諸問題</p> <p>全洋一冊裝</p> <p>定價 金四圓貳拾錢 送料 金拾八錢</p>	<p>滋賀縣師範 學校調導 佛性誠太郎著</p> <p>文化史的教授</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金貳圓貳拾錢 送料 金拾貳錢</p>	<p>廣島高等師範 範學校調導 大久保馨著</p> <p>國史教授の根本問題</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金貳圓五十錢 送料 金拾貳錢</p>	<p>文學博士 村川堅固著</p> <p>米國と世界大戰</p> <p>全洋一冊裝</p> <p>定價 金貳圓五十錢 送料 金拾貳錢</p>	<p>廣島高等師範 範學校教授 文學士 金子健二著</p> <p>英國世界相史</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金貳圓八拾錢 送料 金十圓貳錢</p>	<p>日本郵船會社 長 伊東米次郎著</p> <p>日本の海運</p> <p>全布一冊裝</p> <p>定價 金貳圓三十錢 送料 金十圓二錢</p>
---	---	--	--	--	--	--

2123
ウ

東京實文館發行書目

海軍々醫大尉 林 良 齊 著

體 育 論

著者は海軍に於ける體育研究家の第一人者であつて、嘗て當局の命に依り體育理論を研究し尙ほ現に其研究に没頭しつゝある士である。本書は著者が十年來の研究の成果を組織的に發表したものであつて、先づ古代及近代の體育史を叙し、次に體操の一般學說から各論の細説に及び、更に遊戯競技の解説、生理的生命の理論、訓練の方法、運動と教育、歩行登攀及駢歩に就て叙し、最後に疲勞の一章を設けて本著を結んで居る。考證該博、所說適切、現代體育に參與する教育家は勿論、體育實際家及家庭的體育に志すの士は、本書によつて始めて一切の體育の理論的方面に透徹することが出来る。

布裝全一冊
定價金參圓八拾錢
送料金拾八錢

岐阜縣師範 藤井範治 訓
學校教諭
校梅澤英造 德島縣師範 竹澤貞次郎 共著
學校教諭

文部省編纂尋常小學唱歌適用 動作遊戯

布裝全一冊
定價金八拾錢
送料金拾八錢

- ▲本書は文部省編纂の尋常小學唱歌を適用して著したるものなり。
- ▲動作遊戯の必要は今更贅言を要せず而して多くは其材料に窮せり。
- ▲本書は著者が多年實驗的研究の結果公にせられたる最新の好著也。
- ▲小學校の教師諸君！是非一本を備へ以て兒童をして活躍せしめよ。

276

327

終